

2026/02/03 1:24

## C\_Program/print\_all.txt

```
FILE: ALDS1_1_A.c
-----
/*
1 insertionSort(A, N) // N個の要素を含む0-オリジンの配列A
2 for i が 1 から N-1 まで
3   v = A[i]
4   i = i - 1
5   while j >= 0 かつ A[j] > v
6     A[j+1] = A[j]
7     j--
8     A[j+1] = v
*/

```

## テスト用の解説メモ

入力の流れ  
- 入力: N の後に N 個の整数  
- 出力: ソートの各ステップごとに配列全体を1行出力

出力タイミング  
1) 初期配列を1行出力  
2) i=1..N-1 の各挿入操作後に1行出力  
- 合計 N 行が出力される

## 手計算確認例

入力

6

5 2 4 6 1 3

出力

5 2 4 6 1 3

2 4 5 6 1 3

2 4 5 6 3

1 2 3 4 5 6

手計算

各入力数 v を左へずらし、v より大きい要素を右に1つずつ移動  
既に整列済みの部分配列 [0..i-1] を保つのが目的

\*/

#include &lt;stdio.h&gt;

void insertionSort(int A[], int N);

void printArray(int A[], int N);

int main(){

int N;

scanf("%d", &amp;N);

int A[N];

for(int i = 0; i &lt; N; i++){

scanf("%d", &amp;A[i]);

}

localhost:64406/31b3d4d49-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

## print\_all.txt

```
insertionSort(A, N);
}
void insertionSort(int A[], int N){
    printArray(A, N);
    for(int i = 1; i < N; i++){
        int v = A[i];
        int j = i - 1;
        while(j >= 0 && A[j] > v){
            A[j+1] = A[j];
            j--;
        }
        A[j+1] = v;
        printArray(A, N);
    }
}

void printArray(int A[], int N){
    for(int i = 0; i < N; i++){
        if(i > 0) printf(" ");
        printf("%d", A[i]);
    }
    printf("\n");
}
```

## FILE: ALDS1\_1\_B.c

```
/*
最大公約数
2つの自然数 x, y を入力とし、それらの最大公約数を求めるプログラムを作成してください。
2つの整数 x と y について、x + d と y + d の余りがともに 0 となる d のうち最大のものを、
x + y の最大公約数 (Greatest Common divisor) と言います。
例えば、35 と 14 の最大公約数 gcd(35, 14) は 7 となります。
これは、35 の約数 {1, 5, 7, 35}, 14 の約数 {1, 2, 7, 14} の公約数 {1, 7} の最大値となります。
*/

```

入力  
x y  
x y が1つの空白区切りで1行に与えられます。

出力  
最大公約数を1行に出力してください。

制約

1 ≤ x, y ≤ 109

ヒント

整数 x, y について、x ≡ y ならば x と y の最大公約数は y と x % y の最大公約数に等しい。ここで x % y は x を y で割った余りである。

入力例 1

147 105

入力例 1 に対する出力

21

\*/

#include &lt;stdio.h&gt;

int gcd(int x, int y);

int main() {

int x, y;

scanf("%d %d", &amp;x, &amp;y);

localhost:64406/31b3d4d49-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

1/124

2/124

2026/02/03 1:24

## print\_all.txt

```
int result = gcd(x, y);
printf("%d\n", result);
return 0;
}

int gcd(int x, int y){
    int tmp;
    if (x < y) {
        tmp = x;
        x = y;
        y = tmp;
    }

    if (y == 0) {
        return x;
    }
    return gcd(y, x % y);
}
```

## FILE: ALDS1\_1\_C.c

/\*
素数
約数が 1 とその数自身だけであるような自然数を素数と言います。  
例えば、最初の9つの素数は2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19 となります。1 は素数ではありません。

n 個の整数を読み込み、それらに含まれる素数の数を出力するプログラムを作成してください。

入力  
最初の行に n が与えられます。続く n 行に n 個の整数が与えられます。

出力  
入力に含まれる素数の数を1行に出力してください。

制約

1 ≤ n ≤ 10,000

2 ≤ 与えられる整数 ≤ 108

入力例 1

6

2

3

4

5

6

7

入力例 1 に対する出力

4

\*/

#include &lt;stdio.h&gt;

int isPrime(int x);

int main(){

int n;

scanf("%d", &amp;n);

int x[n];

for(int i = 0; i &lt; n; i++){

scanf("%d", &amp;x[i]);

}

localhost:64406/31b3d4d49-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

## print\_all.txt

```
scanf("%d", &x[i]);
}

int count = 0;
for(int i = 0; i < n; i++){
    if(isPrime(x[i])){
        count++;
    }
}
printf("%d\n", count);
return 0;
}

int isPrime(int x){
    if(x < 2) return 0;
    for(int i = 2; i * i <= x; i++){
        if(x % i == 0){
            return 0;
        }
    }
    return 1;
}
```

## FILE: ALDS1\_1\_D.c

/\*
最大の利益  
FX取引では、異なる国の通貨を交換することで為替差の利益を得ることができます。  
例えば、1ドル610円の時に1000ドル買い、価格変動により1ドル 100円になった時に売ると、  
(108円 100円)

1000ドル

8800円の利益を得ることができます。

ある通貨について、時刻

における価格

()

)が入として与えられるので、価格の差

(ただし、

)の最大値を求めてください。

入力  
最初の行に整数

が与えられます。続く

行に整数

()

)が順番に与えられます。

出力  
最大値を1行に出力してください。

制約

入力例 1

6

5

3

1

3

4

3

入力例 1 に対する出力

localhost:64406/31b3d4d49-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

3/124

4/124

2026/02/03 1:24

```
3
入力例 2
3
4
3
2
5
入力例 2 に対する出力
-1
*/
#include<stdio.h>

int difference(int x[],int n);

int main(){
    int n;
    scanf("%d",&n);
    int x[n];
    for(int i = 0; i < n; i++){
        scanf("%d",&x[i]);
    }
    int differences = difference(x,n);
    printf("%d\n",differences);
}

return 0;
}

int difference(int x[],int n){
    int minv = x[0];
    int maxv = x[1] - x[0];
    for(int i = 1; i < n; i++){
        if (maxv < x[i] - minv){
            maxv = x[i] - minv;
        }
        if (minv > x[i]){
            minv = x[i];
        }
    }
    return maxv;
}

```

FILE: ALDS1\_10\_A.c

```
/*
フィボナッチ数列
フィボナッチ数列の第
項の値を出力するプログラムを作成してください。ここではフィボナッチ数列を以下の再帰的な式で定義します：
```

入力  
1つの整数  
が与えられます。

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

6/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
制約
入力例 1
6
30 35
35 15
15 5
5 10
10 20
20 25
出力例 1
15125
*/
#include <stdio.h>
#include <limits.h>

#define MAX_N 100

int p[MAX_N + 1];
int m[MAX_N + 1][MAX_N + 1];

int matrixChain(int n) {
    for (int i = 1; i <= n; i++) {
        m[i][i] = 0;
    }

    for (int l = 2; l <= n; l++) {
        for (int i = 1; i <= n - l + 1; i++) {
            int j = i + l - 1;
            m[i][j] = INT_MAX;
            for (int k = i; k < j; k++) {
                int q = m[i][k] + m[k + 1][j] + p[i - 1] * p[k] * p[j];
                if (q < m[i][j]) {
                    m[i][j] = q;
                }
            }
        }
    }

    return m[1][n];
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        int r, c;
        scanf("%d %d", &r, &c);
        if (i == 0) {
            p[0] = r;
        }
        p[i + 1] = c;
    }
    printf("%d\n", matrixChain(n));
    return 0;
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
出力
フィボナッチ数列の第
項の値を出力してください。

制約
入力例 1
3
出力例 1
3
*/
#include <stdio.h>

long long fib[50];

long long fibonacci(int n) {
    if (n == 0) return 1;
    if (n == 1) return 1;

    if (fib[n] != 0) {
        return fib[n];
    }

    fib[n] = fibonacci(n - 1) + fibonacci(n - 2);
    return fib[n];
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);
    printf("%lld\n", fibonacci(n));
    return 0;
}
```

```
FILE: ALDS1_10_B.c
/*
連鎖行列積
個の行列の連鎖
が与えられたとき、スカラーベクトルの回数が最小になるように積
の計算順序を決定する問題を連鎖行列積問題(Matrix-Chain Multiplication problem)といます。
```

個の行列について、行列
の次元が与えられたとき、積
の計算に必要なスカラーベクトルの最小の回数を求めるプログラムを作成してください。

入力
入力の最初の行に、行列の数
が与えられます。続く
行列の数
の次元が空白区切りの2つの整数

で与えられます。
は行列の行の数。
は行列の列の数を表します。

出力
最小の回数を1行に出力してください。

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
FILE: ALDS1_10_C.c
/*
最长共通部分列
最长共通部分列問題 (Longest Common Subsequence problem: LCS) は、2つの与えられた列
と
の最も長い共通部分列を求める問題です。
```

ある列
が
と
両方の部分列であるとき、
を
と
の共通部分列と言います。例えば、

とすると、列
は
と
の共通部分列です。一方、列
は
と
の最も長い共通部分列ではありません。なぜなら、その長さは 3 であり、長さ 4 の共通部分列
が存在するからです。長さが 5 以上の共通部分列が存在しないので、列
は
と
の最も長い共通部分列の1つです。

与えられた2つの文字列
に対して、最も長い共通部分列
の長さを出力するプログラムを作成してください。与えられる文字列は英文字のみで構成されています。

入力
複数のデータセットが与えられます。最初の行にデータセットの数
が与えられます。続く
行にデータセットが与えられます。各データセットでは2つの文字列
がそれぞれ1行に与えられます。

出力
各データセットについて
、
の最も長い共通部分列
の長さを1行に出力してください。

制約
の長さ
または
の長さが 100 を超えるデータセットが含まれる場合、
は 20 以下である。
入力例 1
3
abcdab
bdcaba
abc
abc
bc
出力例 1
4

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

8/124

2026/02/03 1:24  
3  
参考文献  
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.  
\*/

```
#include <stdio.h>
#include <string.h>

#define MAX_LEN 1001
int d[MAX_LEN][MAX_LEN];
char X[MAX_LEN];
char Y[MAX_LEN];

int max(int a, int b) {
    return (a > b) ? a : b;
}

int lcs(char *X, char *Y) {
    int m = strlen(X);
    int n = strlen(Y);

    for (int i = 0; i <= m; i++) {
        dp[i][0] = 0;
    }
    for (int j = 0; j <= n; j++) {
        dp[0][j] = 0;
    }

    for (int i = 1; i <= m; i++) {
        for (int j = 1; j <= n; j++) {
            if (X[i - 1] == Y[j - 1]) {
                dp[i][j] = dp[i - 1][j - 1] + 1;
            } else {
                dp[i][j] = max(dp[i - 1][j], dp[i][j - 1]);
            }
        }
    }
    return dp[m][n];
}

int main(void) {
    int q;
    scanf("%d", &q);

    for (int i = 0; i < q; i++) {
        scanf("%s", X);
        scanf("%s", Y);
        printf("%d\n", lcs(X, Y));
    }

    return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_10\_B.c

/\*  
最適二分探索木

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24  
が小数点以下4桁の実数で与えられます。

出力  
最適二分探索木の探索コストの期待値を1行に出力してください。絶対誤差が  
以下のとき正答と判定されます。

制約  
入力例 1  
5

0.1500 0.1000 0.0500 0.1000 0.2000

0.0500 0.1000 0.0500 0.0500 0.0500 0.1000

出力例 1  
2.75000000

入力例 2  
7

0.0400 0.0600 0.0800 0.0200 0.1000 0.1200 0.1400

0.0600 0.0600 0.0600 0.0600 0.0500 0.0500 0.0500

出力例 2  
3.12000000

/\*

```
#include <stdio.h>
#include <float.h>

#define MAX_N 101

double p[MAX_N];
double q[MAX_N];
double e[MAX_N][MAX_N];
double w[MAX_N][MAX_N];

double min(double a, double b) {
    return (a < b) ? a : b;
}

double optimalBST(int n) {
    for (int i = 1; i <= n + 1; i++) {
        e[i][i - 1] = q[i - 1];
        w[i][i - 1] = q[i - 1];
    }

    for (int l = 1; l <= n; l++) {
        for (int r = l; r <= n - l + 1; r++) {
            int t = l + r - 1;
            e[l][r] = DBL_MAX;
            w[l][r] = w[l][r - 1] + p[r] + q[t];
            for (int i = r; i <= t; i++) {
                double c = e[i][r - 1] + e[r + 1][t] + w[i][t];
                if (t < e[i][t]) {
                    e[i][t] = t;
                }
            }
        }
    }
    return e[1][n];
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

print\_all.txt

2026/02/03 1:24  
最適二分探索木とは、  
個のキーと  
個のダミーキーから、1回の探索にかかるコストの期待値が最小となるように構成された二分探索木のことです。  
ソート済みの  
個の異なるキーの列  
から、最適な探索木を構成することを考えます。各キー  
に対して探索が起きる確率は  
です。また、探索は  
に含まれない値に対しても起こりうるので、  
に含まれない値を表す  
個のダミーキー  
を用意します。具体的には、ダミーキー  
は以下のようになります。  
なら、  
は  
よりも小さいすべての値を表す。  
なら、  
は  
よりも大きいすべての値を表す。  
なら、  
は  
よりも大きく、  
よりも小さいすべての値を表す。  
各ダミーキー  
で探索が終わる確率は  
であることもわかっています。ここで、  
と  
に関する、以下の式が成立します。  
これらの情報を、ある二分探索木  
における1回の探索コストの期待値は以下の式で得られます。ここで、  
は  
における節点  
の深さです。  
この値を最小化するように構成された二分探索木を、最適二分探索木呼びます。  
各キー  
は内部節点、各ダミーキー  
は葉になります。例えば、入力例1の場合の最適二分探索木は以下のようになります。

課題  
個の各キーに対して探索が起きる確率  
と、  
個の各ダミーキーで探索が終わる確率  
が与えられるので、このときの最適二分探索木の1回の探索コストの期待値を出力するプログラムを作成してください。  
入力  
...  
...  
1行目はキーの個数を表す整数  
が与えられます。  
2行目は各キーに対して探索が起きる確率  
が小数点以下4桁の実数で与えられます。  
3行目はダミーキーで探索が終わる確率  
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

9/124

print\_all.txt

2026/02/03 1:24  
if (int i = 1; i <= n; i++) {  
 if ((scanf("%lf", &p[i]) != 1) return 1;  
  
 for (int l = 0; l <= n; l++) {  
 if ((scanf("%lf", &q[l]) != 1) return 1;  
  
 double result = optimalBST(n);  
 printf("%.8lf\n", result);  
  
 return 0;  
 }  
}  
  
FILE: ALDS1\_11\_A.c  
/\*  
グラフ  
グラフ  
の表現方法には隣接リスト(adjacency list)による表現と隣接行列(adjacency matrices)による表現があります。  
隣接リスト表現では、  
の各頂点に対して1個、合計  
個のリスト  
でグラフを表します。頂点  
に対して、隣接リスト  
は  
に属する辺  
におけるすべての頂点  
を含んでいます。つまり、  
は  
において  
と隣接するすべての頂点からなります。  
一方、隣接行列表現では、頂点  
から頂点  
へ辺がある場合  
が1、ない場合は0であるような  
の行列  
でグラフを表します。  
隣接リスト表現の形式で与えられた有向グラフ  
の隣接行列を出力するプログラムを作成してください。  
は  
個の頂点を含み、それぞれ  
から  
までの番号がふられているものとします。  
入力  
隣接行列の  
の頂点数  
が与えられます。続く  
行で各頂点  
の隣接リスト  
が以下の形式で与えられます：

11/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

10/124

2026/02/03 24

print\_all.txt

は頂点の番号、  
は  
の出次数、  
は  
に隣接する頂点の番号を示します。

出力  
出力例に従い、  
の隣接行列を出力してください。  
の間に1つの空白を入れてください。

制約

入力例

4

1 2 2 4

2 2 4

3 0

4 1 3

出力例

0 1 0 1

0 0 0 1

0 0 0 0

0 0 1 0

\*/

/\* グラフの表現方法の解説

【隣接リスト (Adjacency List)】

- 各頂点ごとに、隣接する頂点のリストを保持

- メモリ効率が良い(辺の数に比例)

- 全体の効率を調べるときに効率的

例: 有向グラフで 1-&gt;2, 1-&gt;4 の場合

隣接リスト [1] = {2, 4}

【隣接行列 (Adjacency Matrix)】

- n × n の行列 A で、A[i][j] = 1 なら i-&gt;j の辺がある

- 2つの頂点が辺でつながっているか高速に判定可能

- メモリ効率は悪い (O(n^2))

【問題の要点】

隣接リスト形式の入力を隣接行列に変換

入力形式:

u k v1 v2 ... vk

- u: 頂点番号

- k: 出次数 (隣接する頂点の個数)

- v1, v2, ..., vk: 隣接頂点のリスト

【具体例】

入力:

1 2 2 4 ← 頂点1から頂点2, 4へ辺がある

2 1 4 ← 頂点2から頂点1へ辺がある

3 0 ← 頂点3から出でいく辺なし

4 1 3 ← 頂点4から頂点3へ辺がある

隣接行列:

1 2 3 4

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

14/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

深さ優先探索 (Depth First Search: DFS) は、可能な限り隣接する頂点を訪問する、という戦略に基づくグラフの探索アルゴリズムです。未探索の接続辺が残されている頂点の中で最後に見出した頂点の接続辺を再帰的に探しします。

辺をすべて探し終えると、

を見出したときに通ってきた辺を後戻りして探索を続行します。

探索は元の始点から到達可能なまでの頂点を見出すまで続き、未発見の頂点が残っていれば、その中の番号が一番小さい1つを新たな始点として探索を続けます。

深さ優先探索では、各頂点に以下のタイムスタンプを押します：

タイムスタンプ

:

を最初に見出した発見時刻を記録します。

タイムスタンプ

:

の隣接リストを調べ終えた完了時刻を記録します。

以下の仕様に従い、与えられた有向グラフ

に対する深さ優先探索の動作を示すプログラムを作成してください：

隣接リスト表示の形式で与えられます。各頂点には

から

までの番号がふられています。

各隣接リストの頂点は番号が小さい順に並べられています。

プログラムは各頂点の発見時刻と完了時刻を報告します。

深さ優先探索では、訪問した頂点の候補が複数ある場合は頂点番号が小さいものから選択します。

訪問に到達する頂点の開始時刻を 1 とします。

入力

最初の行に

の頂点数

が与えられます。続く

行で各頂点

の隣接リストが以下の形式で与えられます：

...

は頂点の番号、

は

の出次数、

は

に隣接する頂点の番号を示します。

出力

各頂点にいて

、

を空白区切りで1行に出力してください。

は頂点の番号、

はその頂点の発見時刻、

はその頂点の完了時刻。頂点の番号順で出力してください。

制約

入力例 1

4

1 1 2

2 1 4

3 0

4 1 3

出力例 1

1 1 8

2 2 7

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

15/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
1 [ 0 1 0 1 ] - 1-2, 1-4
2 [ 0 0 0 1 ] - 2-4
3 [ 0 0 0 0 ] - 出でいく辺なし
4 [ 0 0 1 0 ] - 4-3
```

【実装ステップ】  
 1. n 行の隣接行列を 0 で初期化  
 2. n 行分の隣接リスト情報を読み込み  
 3. 各隣接頂点について Adj[u][v] = 1 を設定  
 4. 行列を出力

【計算量】

入力: O(V + E) - V個の頂点、E個の辺  
 行列出力: O(V<sup>2</sup>)  
 総合: O(V + E + V<sup>2</sup>)  
 \*/

```
#include <stdio.h>
#include <string.h>
```

#define MAX\_V 101

```
int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);
```

```
//隣接行列を 0 で初期化
int Adj[MAX_V][MAX_V];
memset(Adj, 0, sizeof(Adj));
```

```
//隣接リスト形式の入力を読み込む
for (int i = 0; i < n; i++) {
    int u, k;
    scanf("%d", &u);
    for (int j = 0; j < k; j++) {
        int v;
        scanf("%d", &v);
        //頂点 u に隣接する k 個の頂点を読み込む
        for (int l = 0; l < k; l++) {
            int v;
            scanf("%d", &v);
            //辺 u-v が存在することを記録
            Adj[u][v] = 1;
        }
    }
}
```

```
//隣接行列を出力
for (int i = 1; i <= n; i++) {
    for (int j = 1; j <= n; j++) {
        if (j == i) printf("-");
        printf("%d", Adj[i][j]);
    }
    printf("\n");
}
```

```
return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_11\_B.c

/\*

深さ優先探索

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

print\_all.txt

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

3 4 5

4 3 6

入力例 2

6

1 2 2 3

2 2 3 4

3 3 5

4 1 6

5 1 6

6 6

出力例 2

1 1 12

2 2 11

3 3 8

4 9 10

5 4 7

6 5 6

入力例2に対応するグラフ(発見時刻/完了時刻)

参考文献

Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.

\*/

深さ優先探索 (DFS) の解説

【DFS】

グラフの全ての頂点を訪問するアルゴリズム

「できるだけ深く」進みながら探索

【タイムスタンプの意味】

d[u]: 頂点を最初に見出した時刻

f[u]: 頂点の全ての隣接頂点を調べ終えた時刻

【DFSの流れ】

例: 頂点1 → 2 → 4 → 3 → (戻る)

1-1: 発見, 2-2: 発見, 3-4: 発見, 3-5: 完了, 4-6: 完了, 2-7: 完了, 1-8: 完了

タイムスタンプの付け方:

- 頂点を訪問した時に d[u] = ++timer

- 頂点の全ての隣接頂点を探索し終えたとき f[u] = ++timer

【具体例】

グラフ:

1 - 2 - 4 - 3 (なし)

DFS実行:

timer=0

訪問(1): d[1]=1, timer=1

訪問(2): d[2]=2, timer=2

訪問(4): d[4]=3, timer=3

訪問(3): d[3]=4, timer=4

(3)から出でいく(辺なし)

完了(3): f[3]=5, timer=5

完了(4): f[4]=6, timer=6

完了(2): f[2]=7, timer=7

完了(1): f[1]=8, timer=8

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
結果:
1 1 8
2 2 7
3 4 5
4 3 6

【体例】
グラフが複数のコンポーネントに分かれている場合:
- 1つのコンポーネント: 1-2-3-5-6, 4-6
- timer は動きの始まり開始

訪問順序: 1(d=1) -> (d=2) -> 3(d=3) -> 5(d=4) -> 6(d=5)
完了順序: 6(f=6) -> 5(f=7) -> 3(f=8) -> 2(f=11)
次のコンボーション: 4(d=9) -> 6はすでに訪問済み
完了: 4(f=10)
完了: 1(f=12)

【計算】
時間: O(V) + E - 全頂点と全辺を訪問
空間: O(V) - 両端スタックと配列
```

【実装のポイント】

1. グラフを隣接行列で表現
2. visited配列で訪問済みかどうかを判定
3. d, f配列でタイムスタンプを記録
4. 未訪問の頂点から順番に DFS を開始

```
/*
#include <stdio.h>
#include <string.h>
#include <stdbool.h>

#define MAX_V 101

int timer = 0;
bool visited[MAX_V];
int d[MAX_V]; // 発見時刻
int f[MAX_V]; // 完了時刻
int Adj[MAX_V][MAX_V];

// 隣接リスト構造
void dfs(int u, int n) {
    visited[u] = true;
    d[u] = ++timer; // 発見時刻を記録

    // u から隣接する全ての頂点を探索
    for (int v = 1; v <= n; v++) {
        if (Adj[u][v] == 1 && !visited[v]) {
            dfs(v, n);
        }
    }

    f[u] = ++timer; // 完了時刻を記録
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    // 隣接行列と訪問済み配列を初期化
    memset(Adj, 0, sizeof(Adj));
}

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
#+-: [1]

■ステップ1: u=1 を取り出す
隣接: 2, 4
訪問(2): dist[2]=0+1=1, キュー: [2, 4]
訪問(4): dist[4]=0+1=1, キュー: [2, 4]

■ステップ2: u=2 を取り出す
隣接: 4
4は既に訪問済み, キュー: [4]

■ステップ3: u=4 を取り出す
隣接: 3
訪問(3): dist[3]=1+1=2, キュー: [3]

■ステップ4: u=3 を取り出す
隣接: なし, キュー: []

結果:
1: 距離 0
2: 距離 1
3: 距離 2
4: 距離 1

【計算】
時間: O(V + E) - 各頂点と各辺を1回訪問
空間: O(V) - キューと距離配列

【実装のポイント】
1. ドリームコードの実装
2. 訪問済みかどうかを距離配列で判定 (-1=未訪問)
3. 隣接する全て未訪問頂点を同じ距離でキューに追加
4. 到達不可能な頂点は-1で出力
*/
```

```
#include <stdio.h>
#include <string.h>
#define MAX_V 101
#define QUEUE_SIZE 10001

int dist[MAX_V]; // 距離配列
int Adj[MAX_V][MAX_V]; // 隣接行列
int queue[QUEUE_SIZE]; // キュー
int queue_front = 0;
int queue_rear = 0;

// キューに要素を追加
void enqueue(int x) {
    queue[queue_rear++] = x;
}

// キューから要素を取り出す
int dequeue(void) {
    return queue[queue_front++];
}

// キューが空かどうかを判定
int is_empty(void) {
    return queue_front >= queue_rear;
}

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
memset(visited, false, sizeof(visited));
// 隣接リスト形式の入力を読み込む
for (int i = 0; i < n; i++) {
    int u, k;
    scanf("%d %d", &u, &k);
    for (int j = 0; j < k; j++) {
        int v;
        scanf("%d", &v);
        Adj[u][v] = 1;
    }
}

// 各頂点から DFS を開始 (未訪問の場合のみ)
for (int i = 1; i <= n; i++) {
    if (!visited[i]) {
        dfs(i, n);
    }
}

// 結果を出力
for (int i = 1; i <= n; i++) {
    printf("%d %d\n", i, dist[i]);
}

return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_11\_C.c

/\*  
幅優先探索の解説

【BFSとは】  
グラフの各頂点を訪問し、始点から各頂点への最短距離を求めるアルゴリズム  
「できるだけ早く」層ごとに探索 (DFSとの対比)

【最短距離とは】  
ババ上での迷路の最小値

【キューを使う理由】  
BFSではキュー (FIFO) を使用:  
1. 始点をキューに入れ  
2. キューから要素を取り出す  
3. その要素の隣接頂点をキューに追加  
4. 距離をインクリメント  
5. キューが空になるまで繰り返す

DFSではスタック (LIFO) を使うのに対し、  
BFSではキュー (FIFO) を使うことで層ごとの処理が実現できる

【体例】  
グラフ: 1-2, 1-4, 2-4, 4-3

開始頂点: 1

■初期化  
dist[1]=0 (始点の距離)  
dist[2]=dist[3]=dist[4]=-1 (未訪問)

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

17/124

print\_all.txt

```
// 幅優先探索
void bfs(int start, int n) {
    // 距離の初期化 -1: 未訪問
    for (int i = 1; i <= n; i++) {
        dist[i] = -1;
    }

    dist[start] = 0; // 始点の距離は0
    enqueue(start);

    while (!is_empty()) {
        int u = dequeue();

        // u から隣接する全ての頂点を探索
        for (int v = 1; v <= n; v++) {
            if (Adj[u][v] == 1 && dist[v] == -1) {
                dist[v] = dist[u] + 1;
                enqueue(v);
            }
        }
    }
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    // 隣接行列を初期化
    memset(Adj, 0, sizeof(Adj));

    // 隣接リスト形式の入力を読み込む
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        int u, k;
        scanf("%d %d", &u, &k);
        for (int j = 0; j < k; j++) {
            int v;
            scanf("%d", &v);
            Adj[u][v] = 1;
        }
    }

    // 頂点1から幅優先探索を開始
    bfs(1, n);

    // 結果を出力
    for (int i = 1; i <= n; i++) {
        printf("%d %d\n", i, dist[i]);
    }

    return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_11\_D.c

/\*  
連結成分分解  
SNS の友達関係を入力し、双方向の友連リンクを経由してある人からある人へたどりかかるかどうかを判定するプログラムを作成してください。

入力

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

19/124

18/124

20/124

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

1目目にSNS のユーザを表す整数
と友達関係の数
が空白区切りで与えられます。SNS の各ユーザには 0 から
まで白ID が割り当てられています。

続く
行に 1つの友達関係が各行で与えられます。1つの友達関係は空白で区切られた2つの整数
で与えられ、
と
が友達であることを示します。
終り 1行に、質問の数
が与えられます。続く
行に質問が与えられます。各質問は空白で区切られた2つの整数
で与えられ、「
から
へたどり避けますか?」という質問を意味します。
```

出力  
各質問に対して  
から  
にたどり避けた場合は yes と、たどり避けない場合は no と1行に出力してください。

制約  
入力例  
10 9  
0 1  
0 2  
3 4  
5 7  
5 6  
6 7  
6 8  
7 8  
8 9  
3  
0 1  
5 9  
1 3  
出力例  
yes  
yes  
no  
\*/

連結成分分解の解説

【問題の本質】  
SNSの友達関係をグラフで表現  
- 2人が同じ種組成分に属しているかを高速に判定

【Union-Find】(集合データ構造) とは】  
複数のグループ (連結成分) を管理するデータ構造

操作:

1. find(x): xが属するグループの代表元を返す

2. union(x, y): x,yを同じグループに結合

【Union-Findの原理】

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
親木インデク配列 parent[] を使用:
- parent[i] = i の親ノード番号
- parent[x] = x の場合、xが根 (代表元)

例: 0-1, 0-2, 3-4 の友達関係

初期状態:
parent = [0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9]

union(0, 1);
root(0)=0, root(1)=1
parent[1] = 0
parent = [0, 0, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9]

union(0, 2);
root(0)=0, root(2)=2
parent[2] = 0
parent = [0, 0, 0, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9]

union(3, 4);
root(3)=3, root(4)=4
parent[4] = 3
parent = [0, 0, 0, 0, 3, 5, 6, 7, 8, 9]

質問 find(0) == find(1);
root(0) = 0, root(1) = 0
- 同じグループ - yes

質問 find(1) == find(3);
root(1) = 0, root(3) = 3
- 異なるグループ - no

【最適化: 経路圧縮 (Path Compression)】
find() を呼び出すごとに、パス上の全ノードを直接根に繋ぎ直す
- 次回以降の find が高速化

【計算量 (経路圧縮なし)】
find: O(n) - 最悪の場合、チーン全体を走査
union: O(n) - find を1回呼び出し

【計算量 (経路圧縮あり)】
find: ほぼ O(1) - 平均的に高速
union: ほぼ O(1) - 平均的に高速

【具体例: 10ユーザー、9つの友達関係】
```

入力:
0-1, 0-2, 3-4, 5-7, 5-6, 6-7, 6-8, 7-8, 8-9

結果:

```
union(0,1) - (0,1)
union(0,2) - (0,2)
union(3,4) - (3,4)
union(5,7) - (5,7)
union(5,6) - (5,6,7)
union(6,7) - (5,6,7) (既に同じグループ)
union(6,8) - (5,6,7,8)
union(7,8) - (5,6,7,8) (既に同じグループ)
union(8,9) - (5,6,7,8,9)
```

連結成分: (0,1,2), (3,4), (5,6,7,8,9)

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

22/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

質問:
0と1: find(0)==find(1) - yes
5と9: find(5)==find(9) - yes
1と3: find(1)==find(3) - no
\*/

#include <stdio.h>

#define MAX\_N 100001

int parent[MAX\_N];

// 代表元 (親) を見つける関数

// 経路圧縮を使用して最適化
int find(int x) {
 if (parent[x] != x) {
 parent[x] = find(parent[x]); // 経路圧縮
 }
 return parent[x];
}

// 2つの要素を同じグループに統合
void unite(int x, int y) {
 int root\_x = find(x);
 int root\_y = find(y);

 if (root\_x != root\_y) {
 parent[root\_x] = root\_y; // xの根をyの根に繋ぎ替え
 }
}

int main(void) {
 int n, m;
 scanf("%d %d", &n, &m);

// 初期化: 各要素が独立したグループ
for (int i = 0; i < n; i++) {
 parent[i] = i;
}

// 友達関係を処理 (グループ化)
for (int i = 0; i < m; i++) {
 int x, y;
 scanf("%d %d", &x, &y);
 unite(x, y);
}

// 質問に答える
int q;
scanf("%d", &q);

for (int i = 0; i < q; i++) {
 int x, y;
 scanf("%d %d", &x, &y);
}

```
if (find(x) == find(y)) {
    printf("yes\n");
} else {
    printf("no\n");
}
```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
return 0;
}

FILE: ALDS1_12_A.c
-----
/*
最小全域木 (Minimum Spanning Tree) - プリム法
最小全域木とは、重み付き無向グラフの全頂点を含む木のうち、
辺の重みの総和が最小となるものです。

プリム法のアルゴリズム:
1. 始点を選び、その頂点を訪問済みとする
2. 訪問済み頂点から未訪問頂点への辺のうち、最小コストの辺を選ぶ
3. その辺で新たな未訪問頂点を訪問済みにし、辺のコストを総和に加える
4. 全頂点が訪問済みになるとまで繰り返す

時間計算量: O(V^2) (隣接行列を使用)
*/

```

```
#include <stdio.h>
#include <limits.h>
#include <stdbool.h>
```

#define MAX\_N 100

```
int Weight[MAX_N+1][MAX_N+1]; // 隣接行列 (重み)
int minCost[MAX_N+1]; // 各頂点への最小コスト
bool visited[MAX_N+1]; // 訪問済みフラグ
```

```
// プリム法による最小全域木のコスト計算
int prim(int n) {
    int totalCost = 0;
```

// 初期化: 全頂点の最小コストを無限大に設定
for (int i = 1; i <= n; i++) {
 minCost[i] = INT\_MAX;
 visited[i] = false;
}

// 始点 (頂点1) のコストを0に設定
minCost[1] = 0;

// n個の頂点を順番に木に追加
for (int i = 0; i < n; i++) {
 int u = -1;
 int minWeight = INT\_MAX;

```
// 未訪問の頂点の中で最小コストの頂点を選択
    for (int v = 0; v < n; v++) {
        if (!visited[v] && minCost[v] < minWeight) {
            minWeight = minCost[v];
            u = v;
        }
    }

// 選択した頂点を訪問済みにし、コストを加算
    visited[u] = true;
    totalCost += minWeight;
}
```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

24/124

2026/02/03 1:24

```

print_all.txt

// 遊びした頂点から到達可能な未訪問頂点の最小コストを更新
for (int v = 1; v <= n; v++) {
    if (!visited[v] && Weight[u][v] < minCost[v]) {
        minCost[v] = Weight[u][v];
    }
}
return totalCost;
}

int main() {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    // 隣接行列の入力 (-1は辺が存在しないことを表す)
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        for (int j = 0; j < n; j++) {
            scanf("%d", &weight[i][j]);
        }
    }

    // 最小全域木のコストを計算して出力
    int result = prim(n);
    printf("%d\n", result);

    return 0;
}

```

FILE: ALDS1\_12\_B.c

```

/*
単一始点最短経路 I - ダイクストラ法

ダイクストラ法は、重み付有向グラフにおいて、
始点から各頂点への最短経路を求めるアルゴリズムです。

```

アルゴリズムの流れ:

1. 始点の距離を0、他の頂点の距離を無限大(未確定)に初期化
2. 未確定の頂点の中で、距離が最小の頂点uを選択
3. uを訪問済みにする
4. uから到達可能な各頂点vについて、距離を更新(緩和操作)
5. 全頂点が訪問済みにならままで4繰り返す

時間計算量: O(V^2) (隣接行列を用いた実装)  
空間計算量: O(V^2) (隣接行列を使用)

注意: このアルゴリズムは辺の重みが非負の場合のみ正しく動作します

```

#include <stdio.h>
#include <stdbool.h>

#define MAX_N 100
#define INF -1 // 到達不可能を表す

```

```

int adj[MAX_N][MAX_N]; // 隣接行列 (0は辺なし)
localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

```

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

// グラフの入力 (隣接リスト形式)
for (int i = 0; i < n; i++) {
    int u, k;
    scanf("%d %d", &u, &k);
    for (int j = 0; j < k; j++) {
        int v, c;
        scanf("%d %d", &v, &c);
        adj[u][v] = c;
    }
}

// ダイクストラ法の実行
dijkstra(n);
return 0;
}

```

FILE: ALDS1\_12\_C.c

```

/*
単一始点最短経路 II
与えられた重み付き有向グラフについて、単一始点最短経路のコストを求めるプログラムを作成してください。

```

頂点数

を始めとし、

から各頂点

について、最短経路上の辺の重みの総和

を出してください。

入力

最初の行に

の頂点数

が与えられます。続く

行で各頂点

の隣接リストが以下の形式で与えられます:

...

の各頂点には

から

の重みが記されています。

は頂点の番号であり、

は

の出次数を示します。

は

に隣接する頂点の番号であり、

は

と

をつなぐ有向辺の重みを示します。

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```

print_all.txt

int dist[MAX_N]; // 始点からの最短距離
bool visited[MAX_N]; // 訪問済みフラグ

// ダイクストラ法による最短経路の計算
void dijkstra(int n) {
    // 初期化
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        dist[i] = INF; // 初期状態では到達不可能
        visited[i] = false; // 未訪問
    }

    // 始点(頂点0)の距離を0に設定
    dist[0] = 0;

    // n回のループで全頂点を処理
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        int u = -1;
        int minDist = INF;

        // 未訪問かつ距離が確定している頂点の中で最小距離の頂点を選択
        for (int v = 0; v < n; v++) {
            if (visited[v] && dist[v] != INF) {
                if (u == -1 || dist[v] < minDist) {
                    minDist = dist[v];
                    u = v;
                }
            }
        }

        // 到達可能な未訪問頂点がなければ終了
        if (u == -1) break;

        // 選択した頂点を訪問済みにする
        visited[u] = true;

        // 未訪問可能な頂点の距離を更新(緩和操作)
        for (int v = 0; v < n; v++) {
            if (adj[u][v] != 0) { // 辺が存在する場合
                if (newDist = dist[u] + adj[u][v];
                    // より短い経路が見つかった場合、距離を更新
                    if (dist[v] == INF || newDist < dist[v]) {
                        dist[v] = newDist;
                    }
                )
            }
        }

        // 結果の出力
        for (int i = 0; i < n; i++) {
            printf("%d %d\n", i, dist[i]);
        }
    }
}

int main() {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    // 隣接行列の初期化
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        for (int j = 0; j < n; j++) {
            adj[i][j] = 0;
        }
    }

    dijkstra(n);
    return 0;
}

```

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

26/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

输出
各頂点の番号
と距離
を1つの空白区切りで順番に出力してください。

制約
0から各ノードへは必ず経路が存在する
入力例 1
5
0 3 2 3 3 1 1
2 0 2 3 1 1 1
3 2 0 1 3 1 4 1
3 4 2 1 0 1 1 4 4 3
4 2 2 1 3 3
出力例 1
0 0
2 2
2 2
3 1
4 3

参考文献
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.
*/

```

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

28/124



```

2026/02/03 1:24 print_all.txt
{
    int i;
    unsigned res;

    res = 0;
    for (i = 0; i < 9; i++) {
        if (i == 0) (i == zero) res <<= 4, res |= nine[nx];
        else if (i != nx) res <<= 4, res |= nine[i];
    }
    return res;
}

#define MAGIC 20

int main()
{
    int i, x, nx, v, nv, t;
    unsigned a, na;
    unsigned end = int gx;
    char nine[9];

    gs = 0; for (i = 0; i < 9; i++) {
        scanf("%d", &t);
        if (t == 0) gx = i;
        else gs <<= 4, gs |= t;
    }
    s[0].s = 0x12345678, s[0].x = 8;
    s[1].x = -1;
    top = 0, end = 2;
    insert(s[0], s, s[0].x, 0);
    v = 0;
    while (top != end) {
        a = s[top].s, x = s[top].x;
        if (++top == QMAX) top = 0;
        if (x < 0) {
            if (v == MAGIC) break;
            v++;
            s[end].x = -1; if (++end == QMAX) end = 0;
            continue;
        }
        if (x == gx && a == gs) goto done;
        if (lookup(a, x) < v) continue;

        toArray(nine, a, x);
        for (i = 0; i < hi[x]; i++) {
            nx = to[x][i];
            na = swap(nine, x, nx), nv = v+1;
            t = lookup(na, nx);
            if (t || nv < t) {
                s[end].s = na, s[end].x = nx;
                if (++end == QMAX) end = 0;
                insert(na, nx, nv);
            }
        }
    }

    s[0].s = gs, s[1].x = gx, s[1].x = -1;
    top = 0, end = 2;
    v = 0;
    while (top != end) {
        a = s[top].s, x = s[top].x;
        if (++top == QMAX) top = 0;
        if (x == gx) goto done;
        if (v == MAGIC) break;
        v++;

        s[0].s = gs, s[1].x = -1;
        for (i = 0; i < hi[x]; i++) {
            nx = to[x][i];
            na = swap(nine, x, nx), nv = v+1;
            t = lookup(na, nx);
            if (t || nv < t) {
                s[end].s = na, s[end].x = nx;
                if (++end == QMAX) end = 0;
                insert(na, nx, nv);
            }
        }
    }
}
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/ 33/124

2026/02/03 1:24 print_all.txt
{
    if (x < 0) {
        v++;
        s[end].x = -1; if (++end == QMAX) end = 0;
        continue;
    }
    if ((t = lookup(a, x)) > 0) { v += t; break; }

    toArray(nine, a, x);
    for (i = 0; i < hi[x]; i++) {
        nx = to[x][i];
        na = swap(nine, x, nx), nv = v+1;
        t = lookup(na, nx);
        if (t || nv < t) {
            s[end].s = na, s[end].x = nx;
            if (++end == QMAX) end = 0;
        }
    }
}
done:
printf("%d\n", v);
return 0;
}

FILE: ALDS1_13_C.c
-----
/* 15パズル
15 パズルは1つの空白を含む
のマス上に 15 のパネルが配置され、空白を使ってパネルを上下左右にスライドさせ、絵柄を揃えるパズルです。
この問題では、次のように空白を 0、各パネルを 1 から 15 の番号でパズルを表します。
1 2 3 4
5 6 7 8
9 10 11 12
13 14 15 0
15 パズルの初期状態が与えられるので、ゴールまでの最短手数を求めるプログラムを作成してください。
*/
入力
入力はパネルの数字あるいは空白を表す
個の整数です。空白で区切られた 4 つの整数が 4 行で与えられます。
出力
最短手数を 1 行に出力してください。
制約
与えられるパズルは 45 手以内で解くことができる。
入力例
1 2 3 4
5 6 7 8
9 10 11 12
13 14 15 0
出力例
8
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/ 34/124

2026/02/03 1:24 print_all.txt
/*
#include <stdio.h>
typedef unsigned long long ull;
#define QMAX 100000
typedef struct { ull s; char x; v; char t; } QUE;
QUE que[QMAX]; int qsize;
#define PARENT(i) ((i)>>1)
#define LEFT(i) ((i)<<1)
#define RIGHT(i) (((i)<<1)+1)
void min_heapify(int i)
{
    int l, r;
    int min;
    if (l < qsize && que[l].t < que[i].t) min = l; else min = i;
    if (r < qsize && que[r].t < que[min].t) min = r;
    if (min != i) {
        que[min] = que[i]; que[i] = que[min]; que[min] = t;
        min_heapify(min);
    }
}
void delq()
{
    que[0] = que[--qsize];
    min_heapify(0);
}
void enq(ull s, int x, int v, int t)
{
    int i, min;
    QUE qt;

    i = qsize++;
    que[i].s = s, que[i].x = x, que[i].v = v, que[i].t = t;
    while (i > 0 && que[min].t > que[i].t) {
        qt = que[i]; que[i] = que[min]; que[min] = qt;
        i = min;
    }
}
#define HASHSIZ 200003
typedef struct { ull s; char v; } HASH;
HASH hash [HASHSIZ*3], *hashend = hash +HASHSIZ;

int lookup(ull s)
{
    HASH *hp = hash + (int)(s % HASHSIZ);
    while (hp->s == s) return hp->v;
    if (++hp == hashend) hp = hash;
    return -1;
}
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/ 35/124

2026/02/03 1:24 print_all.txt
void insert(ull s, char v)
{
    HASH *hp = hash + (int)(s % HASHSIZ);
    while (hp->s) {
        if (hp->s == s) { hp->v = v; break; }
        if (++hp == hashend) hp = hash;
    }
    hp->s = s, hp->v = v;
}

#define GOAL 0x123456789ABCDEF0LL
#define ABS(a) ((a)>0?(a):-(a))

int hi[16] = {2,3,3,2,3,4,4,3,3,4,4,3,2,3,3,2};
int to[16][4] = {
    {1,4},{0,2,5},{1,3,6},{2,7},
    {0,5,8},{1,4,6,9},{2,5,7,10},{3,6,11},
    {4,9,12},{5,8,10,13},{6,9,11,14},{7,10,15},
    {8,13},{9,12,14},{10,13,15},{11,14}
};

double Magic = 1;

void toArray(char *p16, ull r)
{
    int i;
    for (i = 15; i >= 0; i--) {
        p16[i] = s & 0xf, s >>= 4;
    }
}

ull swap(char *p16, int zero, int nx)
{
    int i;
    ull res;
    res = 0;
    for (i = 0; i < 16; i++) {
        res <<= 4;
        if (i == zero) res |= p16[nx];
        else if (i == nx) res |= p16[zero];
        else res |= p16[i];
    }
    return res;
}

int eval(ull s)
{
    int i, r1, c1, r2, c2;
    int e, t;

    e = 0;
    for (i = 15; i >= 0; i--) {
        t = (i >> 4) & 0xf, s >>= 4;
        if (t == 0) {
            r1 = i >> 2, c1 = i & 3;
            r2 = t >> 2, c2 = t & 3;
            e += ABS(r1-r2) + ABS(c1-c2);
        }
    }
    return (int)(e*magic);
}
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/ 36/124

```

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

int main()
{
    int i, x, nx, v, nv, t;
    ull s, ns;
    char p16[10];

    s = 0; for (i = 0; i < 16; i++) {
        scanf("%d", &t);
        p16[i] = t, s <= 4, s |= t;
        if (t == 0) x = i;
    }
    qsize = 0;
    t = eval(s);
    if (t <= 22) magic = 1.12;
    else if (t <= 25) magic = 1.14;
    else
        magic = 1.28;

    enq(s, x, 0, (int)(t+magic));
}

insert(s, 0);
while (qsize) {
    s = que[0].x, x = que[0].v, v = que[0].nv, deg();
    if (v == GOAL) break;
    if (lookup(s) < v) continue;

    toArray(p16, s);
    for (i = 0; i < 16; i++) {
        ns = swap(p16, i, x);
        nv = v+1;
        t = lookup(ns);
        if (t < 1 || nv < t) {
            enq(ns, nx, nv, eval(ns)+v);
            insert(ns, nv);
        }
    }
}
printf("%d\n", v);
return 0;
}

```

FILE: ALDS1\_2\_A.c

```

/*
パブルソート
パブルソートはその名前が表すように、泡（Bubble）が水面に上っていくように配列の要素が動いていきます。パブルソートは次のようなアルゴリズムで配列を昇順に並び替えます。

1 bubbleSort(A, N) // N 個の要素を含む 0-オリジンの配列 A
2 flag = 1 // 逆の隣接要素が存在する
3 while(flag)
4     flag = 0
5     for j が N-1 から まで
6         if A[j] < A[j-1]
7             A[j] と A[j-1] を交換
8     flag = 1
数列 A を読み込み、パブルソートで昇順に並び替え出力するプログラムを作成してください。また、パブルソートで行われた要素の交換回数も報告してください。

```

入力  
入力の最初の行に、数列の長さを表す整数 N が与えられます。2 行目に、N 個の整数が空白区切りで与えられます。

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

出力
出力は 2 行になります。1 行目に整列された数列を 1 行に出力してください。数列の連続する要素は1つの空白で区切って出力してください。2 行目に交換回数を出力してください。

制約
1 ≤ N ≤ 100
0 ≤ A の要素 ≤ 100
入力例 1
5
5 3 2 4 1
出力例 1
1 2 3 4 5
8

入力例 2
6
5 2 4 6 1 3
出力例 2
1 2 3 4 5 6
9
*/
#include<stdio.h>

int bubbleSort(int x[],int n){
    int count = 0, flag = 1;

    while(flag){
        flag = 0;
        for(int i = n - 1; i > 0; i--){
            if(x[i] < x[i-1]){
                int temp = x[i];
                x[i] = x[i-1];
                x[i-1] = temp;
                count++;
                flag = 1;
            }
        }
    }
    return count;
}

int main(){
    int n;
    scanf("%d",&n);

    int x[n];
    for(int i = 0; i < n; i++){
        scanf("%d",&x[i]);
    }

    int count = bubbleSort(x,n);

    for(int i = 0; i < n; i++){
        if(i) printf(" ");
        printf("%d",x[i]);
    }
    printf("\n%d\n",count);
    return 0;
}

```

FILE: ALDS1\_2\_B.c

```

/*
選択ソート
選択ソートは、各計算ステップで1つの最小値を「選択」していく、直観的なアルゴリズムです。

1 selectionSort(A, N) // N個の要素を含む0-オリジンの配列A
2 for i が 0 から N-1 まで
3     minj = i
4     for j が i から N-1 まで
5         if A[j] < A[minj]
6             minj = A[minj]
7     A[i] と A[minj] を交換
数列Aを読み込み、選択ソートのアルゴリズムで昇順に並び替え出力するプログラムを作成してください。上の疑似コードに従いアルゴリズムを実装してください。

```

疑似コード 7 行目で、i と minj が異なり実際に交換が行われた回数も出力してください。

入力  
入力の最初の行に、数列の長さを表す整数 N が与えられます。2 行目に、N 個の整数が空白区切りで与えられます。

出力  
出力は 2 行になります。1 行目に整列された数列を 1 行に出力してください。数列の連続する要素は1つの空白で区切って出力してください。2 行目に交換回数を出力してください。

FILE: ALDS1\_2\_C.c

```

/*
選択ソート
選択ソートは、各計算ステップで1つの最小値を「選択」していく、直観的なアルゴリズムです。

1 selectionSort(A, N) // N個の要素を含む0-オリジンの配列A
2 for i が 0 から N-1 まで
3     minj = i
4     for j が i から N-1 まで
5         if A[j] < A[minj]
6             minj = A[minj]
7     A[i] と A[minj] を交換
数列Aを読み込み、選択ソートのアルゴリズムで昇順に並び替え出力するプログラムを作成してください。上の疑似コードに従いアルゴリズムを実装してください。

```

疑似コード 7 行目で、i と minj が異なり実際に交換が行われた回数も出力してください。

入力  
入力の最初の行に、数列の長さを表す整数 N が与えられます。2 行目に、N 個の整数が空白区切りで与えられます。

出力  
出力は 2 行になります。1 行目に整列された数列を 1 行に出力してください。数列の連続する要素は1つの空白で区切って出力してください。2 行目に交換回数を出力してください。

FILE: ALDS1\_2\_D.c

```

/*
選択ソート
選択ソートは、各計算ステップで1つの最小値を「選択」していく、直観的なアルゴリズムです。

1 selectionSort(A, N) // N個の要素を含む0-オリジンの配列A
2 for i が 0 から N-1 まで
3     minj = i
4     for j が i から N-1 まで
5         if A[j] < A[minj]
6             minj = A[minj]
7     A[i] と A[minj] を交換
数列Aを読み込み、選択ソートのアルゴリズムで昇順に並び替え出力するプログラムを作成してください。上の疑似コードに従いアルゴリズムを実装してください。

```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

37/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

2026/02/03 1:24
)
return count;
}

int main(){
    int n;
    scanf("%d",&n);

    int x[n];
    for(int i = 0; i < n; i++){
        scanf("%d",&x[i]);
    }

    int count = selectionSort(x,n);

    for(int i = 0; i < n; i++){
        if(i) printf(" ");
        printf("%d",x[i]);
    }
    printf("\n%d\n",count);
    return 0;
}

```

FILE: ALDS1\_2\_E.c

```

/*
安定なソート
トランプのカードを並列しましょう。ここでは、4つの絵柄（S, H, C, D）と9つの数字（1, 2, ..., 9）から構成される計 36 枚のカードを用います。例えば、ハートの 8 は "H8"、ダイヤの 1 は "D1" と表します。

パブルソート及び選択ソートのアルゴリズムを用いて、与えられた N 枚のカードをそれらの数字を基準に昇順に並列するプログラムを作成してください。アルゴリズムはそれぞれ以下に示す疑似コードに従うものとします。数列の要素は 0 オリジンで記述され

```

また、各アルゴリズムについて、与えられた入力に対して安定な出力を実行しているか報告してください。ここでは、同じ数字を持つカードが複数ある場合それが入力に出現する順序で出力されることを、「安定な出力」と呼ぶことにします。（※常に安定な出力

1 行目にカードの枚数 N が与えられます。2 行目に N 枚のカードが表示されます。各カードは絵柄と数字のペアを表す文字であり、隣合うカードは1つの空白で区切られています。

出力  
1 行目に、パブルソートによって並列されたカードを順番に出力してください。隣合うカードは1つの空白で区切ってください。

2 行目に、この出力が安定か否か (Stable またはNot stable) を出力してください。

3 行目に、選択ソートによって並列されたカードを順番に出力してください。隣合うカードは1つの空白で区切ってください。

4 行目に、この出力が安定か否か (Stable またはNot stable) を出力してください。

制約

1 ≤ N ≤ 36

入力例 1

5

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

38/124

2026/02/03 1:24

```
H4 C9 S4 D2 C3  
出力例 1  
D2 C3 H4 S4 C9  
Stable  
D2 C3 S4 H4 C9  
Not stable  
入力例 2  
2  
S1 H1  
出力例 2  
S1 H1  
Stable  
S1 H1  
Stable  
*/
```

#include &lt;stdio.h&gt;

```
typedef struct {  
    char suit;  
    int value;  
    int index;  
} Card;
```

```
void printCards(Card A[], int N) {  
    for (int i = 0; i < N; i++) {  
        if (i > 0) printf(" ");  
        printf("%ch", A[i].suit, A[i].value);  
    }  
    printf("\n");
```

```
int isStable(Card A[], int N) {  
    for (int i = 1; i < N; i++) {  
        if (A[i - 1].value == A[i].value && A[i - 1].index > A[i].index) {  
            return 0;  
        }  
    }  
    return 1;  
}
```

```
void bubbleSort(Card A[], int N) {  
    for (int i = 0; i < N; i++) {  
        for (int j = N - 1; j >= i + 1; j--) {  
            if (A[j].value < A[j - 1].value) {  
                Card tmp = A[j];  
                A[j] = A[j - 1];  
                A[j - 1] = tmp;  
            }  
        }  
    }  
}
```

```
void selectionSort(Card A[], int N) {  
    for (int i = 0; i < N; i++) {  
        int minj = i;  
        for (int j = i; j < N; j++) {  
            if (A[j].value < A[minj].value) {  
                minj = j;  
            }  
        }  
        if (i != minj) {  
            Card tmp = A[i];  
            A[i] = A[minj];  
            A[minj] = tmp;  
        }  
    }  
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
Card tmp = A[i];  
A[i] = A[minj];  
A[minj] = tmp;  
}  
}  
int main(void) {  
    int N;  
    scanf("%d", &N);  
    Card original[36];  
    for (int i = 0; i < N; i++) {  
        char s;  
        int v;  
        scanf(" %ch%d", &s, &v);  
        original[i].suit = s;  
        original[i].value = v;  
        original[i].index = i;  
    }  
    Card bubble[36];  
    Card select[36];  
    for (int i = 0; i < N; i++) {  
        bubble[i] = original[i];  
        select[i] = original[i];  
    }  
    bubbleSort(bubble, N);  
    printCards(bubble, N);  
    printf(isStable(bubble, N) ? "Stable\n" : "Not stable\n");  
  
    selectionSort(select, N);  
    printCards(select, N);  
    printf(isStable(select, N) ? "Stable\n" : "Not stable\n");  
    return 0;  
}
```

FILE: ALDS1\_2\_D.c

```
/*  
* Shell Sort  
次のプログラムは、挿入ソート(ALDS1_1_A)を応用して  
個の整数を並び替える  
を昇順に並べ替えるプログラムです。  
*/
```

```
1 insertionSort(A, n, g)  
2     for i = g to n-1  
3         v = A[i]  
4         j = i - g  
5         while j >= 0 && A[j] > v  
6             A[j+g] = A[j]  
7             j = j - g  
8         cnt++  
9         A[i+g] = v  
10      
11 shellSort(A, n)  
12    cnt = 0  
13    m = ?
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

41/124

42/124

2026/02/03 1:24

```
14     G[] = {?, ?, ..., ?, ?}  
15     for i = 0 to m-1  
16         insertionSort(A, n, G[i])  
shellSort(A, n) は、一定の間隔  
だけ取れた要素のみを対象とした挿入ソートである insertionSort(A, n, g) を、最初は大きい値から  
を抜きながら繰り返します。これをシェルソートと言います。
```

上の疑似コードの ? を埋めてこのプログラムを完成させてください。

と数列  
が与えられるので、疑似コード中の個の整数  
入力

を昇順にした形に変換して出力してください。ただし、出力は以下の条件を満たす必要があります。

cnt の値は  
を超えてはならない  
入力  
1 行目に整数  
2 行目に個の整数  
を空白区切りで出力してください。  
3 行目に  
終了行目に入力  
を出してください。

この問題では、1つの入力に対して複数の解答があります。条件を満たす出力は全て正解となります。

制約

入力例 1

5

1

4

3

2

出力例 1

2

4 1

3

1

2

3

4

5

入力例 2

3

2

1

出力例 2

1

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
3  
1  
2  
3  
*/*  
/*  
シェルソートの解説  
【アルゴリズムの仕組み】  
1. 大きな間隔で要素を分割し、各グループを挿入ソート  
2. 間隔を徐々に狭めて(g=g-1)繰り返す  
3. 最後にg=1で通常の挿入ソートを実行
```

```
【間隔の生成】  
h = 3*h + 1 で生成: 1, 4, 13, 40, 121, ...  
- n以下の値を逆順で使用
```

```
【なぜ効率的か】  
- 大きな間隔で粗く整列 → データが「ほぼ整列」状態に  
- 小さな間隔での挿入ソートが高速化(移動距離が短い)  
- 計算量: O(n^1.5) 程度
```

```
【例】配列 [5, 1, 4, 3, 2], n=5  
間隔: g = {4, 1}
```

```
1) g=4: [2, 1, 4, 3, 5] (隣接の要素を比較)  
2) g=1: [1, 2, 3, 4, 5] (通常の挿入ソート)
```

\*/

#include &lt;stdio.h&gt;

```
long long cnt; // 要素の移動回数をカウント  
int A[1000000]; // ソート対象の配列  
int n; // 配列のサイズ  
int G[50]; // 配列 (最大50個)  
int m; // 間隔の数
```

```
// 間隔gで挿入ソート(シェルソートのサブルーチン)  
// g!=1なら通常挿入ソート、g==1なら飛び飛びのソート
```

```
void insertionSort(int A[], int n, int g) {  
    for (int i = g; i < n; i++) {  
        int v = A[i]; // 帰する値  
        int j = i - g; // 前の位置から比較開始  
        // vより大きい要素を右に個ずつずらす  
        while (j >= 0 && A[j] > v) {  
            A[j + g] = A[j]; // g個左にずらす  
            j = j - g; // 順序へ  
            cnt++; // 移動回数をカウント  
        }  
        A[j + g] = v; // 適切な位置にvを挿入  
    }  
}
```

// シェルソート本体

```
void shellSort(int A[], int n) {  
    cnt = 0;  
    m = 0;  
    // 間隔列Gを生成: h = 3*h + 1 (1, 4, 13, 40, ...)  
    // n以下の値を配列に格納  
    for (int h = 1; h <= n; h = 3 * h + 1) {  
        //
```

43/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

44/124

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt
G[m++]= h;
}

// 大きい間隔から小さい間隔へ降順へ挿入ソート
// 例: G = [1, 4, 13]なら 13 - 4 - 1 の順
for (int i = m - 1; i >= 0; i--) {
    insertionSort(A, n, G[i]);
}

int main(void) {
    scanf("%d", &n);
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%d", &A[i]);
    }
    shellSort(A, n);

    // 出力1: 間隔列の値をn行で空白区切りで1行に
    for (int i = m - 1; i >= 0; i--) {
        if (i < m - 1) printf(" ");
        printf("%d", G[i]);
    }
    printf("\n");

    // 出力2: 間隔列G(降順)を空白区切りで1行に
    // 例: G = [1, 4, 13]なら 13 - 4 - 1 の順
    for (int i = m - 1; i >= 0; i--) {
        if (i < m - 1) printf(" ");
        printf("%d", G[i]);
    }
    printf("\n");

    // 出力3: 要素の移動回数cnt
    printf("%d\n", cnt);

    // 出力4: ソート済み配列(各要素を1行ずつ)
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        printf("%d\n", A[i]);
    }

    return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_3\_A.c

```
/*
スタック
逆ポーランド記法は、演算子をオペランドの後に記述する記法です。例えば、一般的な中間記法で記述された式 (1+2)*(5+4) は、逆ポーランド記法では 1 2 + 5 4 * と記述されます。逆ポーランド記法では、中間記法で記述される式をそのままオペランドとして扱うことができます。
逆ポーランド記法で与えられた式の計算結果を出力してください。

入力
1つの式が1行に与えられます。連続するシンボル（オペランドあるいは演算子）は1つの空白で区切られて与えられます。
出力
計算結果を1行に出力してください。
制約
2 ≤ 式に含まれるオペランドの数 ≤ 100
1 ≤ 式に含まれる演算子の数 ≤ 99
演算子 '+', '-' のみを含み、1つのオペランドは106 以下の正の整数
-1 × 109 ≤ 計算式中の値 ≤ 109
入力例 1
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt
1 2 +
出力例 1
3
入力例 2
1 2 + 3 4 - *
出力例 2
-3
*/
/*逆ポーランド記法の解説
【逆ポーランド記法とは】
演算子をオペランドの後に記述する記法
例: (1+2)*(5+4) → 1 2 + 5 4 *
【スタックを使った計算方法】
1. 數値を入力したらスタックに積む(push)
2. 演算子が来たら:
   - スタックから2つ取り出す(pop)
   - 演算を行
   - 結果をスタックに積む(push)
3. 最後はスタックに残った値が答え

【例】 1 2 + 3 4 -
初期: 空のスタック
1 → [1]
2 → [1, 2]
+ → [3] (1+2=3)
3 → [3, 31] (1+2=3)
4 → [3, 3, 4] (3+4=7)
- → [3, -1] (3-4=-1)
* → [-3] (3*(-1))=-3
答え: -3
*/
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
#include <string.h>

#define MAX 100

// スタックの実装
int stack[MAX];
int top = 0;

// スタックに値を積む
void push(int x) {
    stack[top++] = x;
}

// スタックから値を取り出す
int pop() {
    return stack[--top];
}

int main(void) {
    char s[100];
    // 入力を空白区切りで読み込んで処理
    while (scanf("%s", s) != EOF) {
```

```
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
45/124
```

46/124

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt
// 数値かどうかを判定(演算子でないもの)
if (s[0] == '+' || s[0] == '-' || s[0] == '*') {
    // 演算子の場合
    int b = pop(); // 右オペランド
    int a = pop(); // 左オペランド

    // 演算を実行してスタックに積む
    if (s[0] == '+') {
        push(a + b);
    } else if (s[0] == '-') {
        push(a - b);
    } else if (s[0] == '*') {
        push(a * b);
    }
} else {
    // 数値の場合、スタックに積む
    push(atoi(s));
}

// スタックに残った値が答え
printf("%d\n", pop());
return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_3\_B.c

```
/*
キュー
名前 namei と必要な処理時間 timei を持つ n 個のプロセスが順番に一列に並んでいます。ラウンドロビンスケジューリングと呼ばれる処理方法では、CPU がプロセスを順番に処理します。各プロセスは最大 q ms (これをクォンタムと呼びます) だけ処理され、その後は、次のプロセスに移ります。例えば、クォンタムを 100 ms とし、次のよなプロセスキューを考えます。
A(150) - B(80) - C(200) - D(200)
まずプロセス A が 100 ms だけ処理され、残り 50 ms を保持しキューの末尾に移動します。
B(80) - C(200) - D(200) - A(50)
次にプロセス B が 80 ms だけ処理され、残り 120 ms を保持しキューの末尾に移動します。
C(200) - D(200) - A(50)
次にプロセス C が 100 ms だけ処理され、残りの必要時間 100 ms を保持しキューの末尾に移動します。
D(200) - A(50) - C(100)
このように、全てのプロセスが終了するまで処理を繰り返します。
ラウンドロビンスケジューリングをシミュレートするプログラムを作成してください。

入力
入力の形式は以下の通りです。
n q
name1 time1
name2 time2
...
namen timen
数値の行で、プロセス数を表す整数 n とクォンタムを表す整数 q が1つの空白区切りで与えられます。
続く n 行で、各プロセスの情報が順番に与えられます。文字列 namei と整数 timei は1つの空白で区切られています。
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt
出力
プロセスが完了した順に、各プロセスの名前と終了時刻を空白で区切って1行に出力してください。
制約
1 ≤ n ≤ 100,000
1 ≤ q ≤ 1,000
1 ≤ timei ≤ 50,000
1 ≤ 文字列 namei の長さ ≤ 10
1 ≤ timei の合計 ≤ 1,000,000
入力例 1
5 100
p1 150
p2 80
p3 200
p4 350
p5 20
q=100
p1 1
p2 100
p5 400
p1 450
p3 550
p4 800
*/
/*ラウンドロビンスケジューリングの解説
【キューとは】
先入れ先出し(FIFO: First In First Out)のデータ構造
最初に入れたものが最初に出てくる(行列と同じ)

【ラウンドロビンの処理手順】
1. キューの頭からプロセスを取り出す
2. クォンタム q ms だけ処理する
3. まだ処理終わっていない場合はキューの末尾に戻す
4. 完了していない場合は終了時刻を出力
5. キューが空にならまで繰り返す

【例】 q=100msの場合
開始: A(150) - B(80) - C(200) - D(200)
時刻100: A(100ms処理) - B(80) - C(200) - D(200) - A(50)
時刻180: B(80ms処理完了) - C(120ms) - D(200) - A(50)
時刻180: C(100ms処理) - D(200) - A(50) - C(100)
時刻280: D(100ms処理) - A(50) - C(100) - D(100)
時刻380: A(50ms)処理完了 - C(300ms) - C(100) - D(100)
時刻430: C(100ms)処理完了 - D(50ms) - D(100)
時刻530: D(100ms)処理完了 - C(60ms) - 終了
*/
#include <stdio.h>
#include <string.h>

#define MAX 100000

// プロセス構造体
typedef struct {
    char name[11];
    int time;
} Process;
```

```
#include <stdio.h>
#include <string.h>

#define MAX 100000

// プロセス構造体
typedef struct {
    char name[11];
    int time;
} Process;

// キューの実装(配列による循環キュー)
```

47/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

48/124

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt
2026/02/03 1:24

Process MAX;
int head = 0; // キューの先頭
int tail = 0; // キューの末尾
int size = 0; // キューのサイズ

// キューにプロセスを追加 (enqueue)
void enqueue(Process p) {
    queue[tail] = p;
    tail = (tail + 1) % MAX;
    size++;
}

// キューからプロセスを取り出す (dequeue)
Process dequeue() {
    Process p = queue[head];
    head = (head + 1) % MAX;
    size--;
    return p;
}

int main(void) {
    int n, q;
    scanf("%d", &n, &q);

    // 初期プロセスをキューに登録
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        Process p;
        scanf("%s %d", p.name, &p.time);
        enqueue(p);
    }

    int current_time = 0;

    // キューが空になるまで処理
    while (size > 0) {
        Process p = dequeue();

        if (p.time <= q) {
            // クオーブルム以内に終了する場合
            current_time += p.time;
            printf("%s %d\n", p.name, current_time);
        } else {
            // クオーブルムで処理しきれない場合
            current_time += q;
            p.time -= q;
            enqueue(p); // キューの末尾に戻す
        }
    }

    return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_3\_C.c  
-----  
双向連続リスト  
以下の命令を実装してください。  
insert x: 連結リストの先頭にキー x を持つ要素を繋ぎ足す。

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24  
print\_all.txt  
2026/02/03 1:24

```
【基本操作】
1. insert(x): 先頭に新しい要素を追加
- 新しいノードを作成
- head の前に挿入

2. delete(x): 指定された値を持つ最初の要素を削除
- リストを先頭から探索
- 見つかったらその後のポインタをつなぎ直す

3. deleteFirst(): 先頭の要素を削除
- head を次の要素に移動

4. deleteLast(): 末尾の要素を削除
- tail の前の要素に移動

【メモリ管理】
- insert時: malloc()で新しいノードを確保
- delete時: free()でメモリを解放（メモリリーク防止）
*/
```

```
#include <csdn.h>
#include <stdlib.h>
#include <string.h>
```

```
// 双向連続リストのノード構造体
typedef struct Node {
    int key;
    struct Node *next;
    struct Node *prev;
} Node;
```

```
// ダミーノード（番兵）
Node *nil;
```

```
// 新しいノードを作成
Node* createNode(int key) {
    Node *node = (Node *)malloc(sizeof(Node));
    node->key = key;
    node->next = nil;
    node->prev = nil;
    return node;
}
```

```
// リストの初期化（ダミーノードを使う方法）
void init() {
    nil = (Node *)malloc(sizeof(Node));
    nil->next = nil;
    nil->prev = nil;
}
```

```
// 先頭に挿入
void insert(int key) {
    Node *x = createNode(key);
    x->next = nil->next;
    nil->next->prev = x;
    nil->next = x;
    x->prev = nil;
}
```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt
2026/02/03 1:24

delete x: キーを持つ最初の要素を連結リストから削除する。そのような要素が存在しない場合は何もしない。
deleteFirst: リストの先頭の要素を削除する。
deleteLast: リストの末尾の要素を削除する。

入力
入力は以下の形式で与えられます。
n
command1
command2
...
commandN
最初の行に命令数 n が与えられます。続く n 行に命令が与えられる。命令は上記4つの命令のいずれかです。キーは整数とします。

出力
全ての命令が終了した後の、連結リスト内のキーを順番に出力してください。連結するキーは1つの空白文字で区切って出力してください。

制約
命令数は 2,000,000 を超えない。
delete 命令の回数は 20 を超えない。
0 ≤ キーの値 ≤ 10^9。
命令の過積でリストの要素数は 10^6 を超えない。
delete, deleteFirst, または deleteLast 命令が与えられるとき、リストには1つ以上の要素が存在する。

入力例 1
7
insert 5
insert 2
insert 3
insert 1
delete 3
insert 6
delete 5
出力例 1
6 1 2

入力例 2
9
insert 5
insert 2
insert 3
insert 1
insert 3
insert 6
delete 5
deleteFirst
deleteLast
出力例 2
1
*

双方向連結リストの解説

【双方向連結リストとは】
各要素は「次の要素」と「前の要素」の両方へのポインタを持つデータ構造
先頭から末尾からもアクセスでき、挿入・削除がO(1)で可能

【構造体の定義】
typedef struct Node {
    int key; // データ
    struct Node *next; // 次の要素へのポインタ
} Node;
```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

49/124

2026/02/03 1:24  
print\_all.txt  
2026/02/03 1:24

```
【基本操作】
1. insert(x): 先頭に新しい要素を追加
- 新しいノードを作成
- head の前に挿入

2. delete(x): 指定された値を持つ最初の要素を削除
- リストを先頭から探索
- 見つかったらその後のポインタをつなぎ直す

3. deleteFirst(): 先頭の要素を削除
- head を次の要素に移動

4. deleteLast(): 末尾の要素を削除
- tail の前の要素に移動

【メモリ管理】
- insert時: malloc()で新しいノードを確保
- delete時: free()でメモリを解放（メモリリーク防止）
*/
```

```
#include <csdn.h>
#include <stdlib.h>
#include <string.h>
```

```
// 双向連続リストのノード構造体
typedef struct Node {
    int key;
    struct Node *next;
    struct Node *prev;
} Node;
```

```
// ダミーノード（番兵）
Node *nil;
```

```
// 新しいノードを作成
Node* createNode(int key) {
    Node *node = (Node *)malloc(sizeof(Node));
    node->key = key;
    node->next = nil;
    node->prev = nil;
    return node;
}
```

```
// リストの初期化（ダミーノードを使う方法）
void init() {
    nil = (Node *)malloc(sizeof(Node));
    nil->next = nil;
    nil->prev = nil;
}
```

```
// 先頭に挿入
void insert(int key) {
    Node *x = createNode(key);
    x->next = nil->next;
    nil->next->prev = x;
    nil->next = x;
    x->prev = nil;
}
```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

```
print_all.txt
2026/02/03 1:24

// 指定したキーを持つ最初の要素を削除
void deleteKey(int key) {
    Node *cur = nil->next;
    while (cur != nil) {
        if (cur->key == key) {
            cur->next->next = cur->next;
            cur->next->prev = cur->prev;
            free(cur);
            return; // 最初の要素だけ削除
        }
        cur = cur->next;
    }
}

// 先頭の要素を削除
void deleteFirst() {
    if (nil->next == nil) return;
    Node *x = nil->next;
    nil->next = x->next;
    x->next->prev = nil;
    free(x);
}

// 末尾の要素を削除
void deleteLast() {
    if (nil->prev == nil) return;
    Node *x = nil->prev;
    x->prev->next = x->next;
    nil->prev = x->prev;
    free(x);
}

// リストの内容を出力
void printList() {
    Node *cur = nil->next;
    int first = 1;
    while (cur != nil) {
        if (!first) printf(" ");
        printf("%d", cur->key);
        first = 0;
        cur = cur->next;
    }
    printf("\n");
}

int main(void) {
    int n, key;
    char command[20];

    scanf("%d", &n);
    init();

    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%s", command);

        if (strcmp(command, "insert") == 0) {
            scanf("%d", &key);
            insert(key);
        } else if (strcmp(command, "delete") == 0) {
            scanf("%d", &key);
            deleteKey(key);
        } else if (strcmp(command, "deleteFirst") == 0) {
            deleteFirst();
        } else if (strcmp(command, "deleteLast") == 0) {
            deleteLast();
        }
    }
}
```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

51/124

52/124



2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

3
3 1 2
1
5
出力例 2
0
入力例 3
1 1 2 2 3
2
1 2
出力例 3
2
/*
*/
線形探索の解説

```

【图形探索と】  
配列の先頭から掃査に目的の要素を探す最も基本的な探索アルゴリズム

時間計算量: O(n)

【番兵 (sentinel) の活用】  
通常の範囲探索では、ループ内で「配列の範囲チェック」と「要素の一一致チェック」の2つの条件判断が必要:  
while (i < n && A[i] != key);  
4. 最後に「末尾で見つかったか (=実際には存在しない)」を判定

【具体例】  
配列S = [1, 2, 3, 4, 5], key = 3 を探し場合

■ 番兵なし:  
i=0: i<5 && S[0]!=3 → 真 → 繰続  
i=1: i<5 && S[1]!=3 → 真 → 繰続  
i=2: i<5 && S[2]!=3 → 假 → 発見!

■ 番兵あり:  
配列を [1, 2, 3, 4, 5, 3] に拡張 (末尾に3を追加)

i=0: S[0]!=3 → 真 → 繰続  
i=1: S[1]!=3 → 真 → 繰続  
i=2: S[2]!=3 → 假 → 発見!  
i!=n (2<5) ので本当に存在する

【このアルゴリズムの利点】  
- 条件判断が1回で済むため高速化  
- コードがシンプルになる

/\*

#include <stdio.h>

```

// 線形探索(番兵を使用)
// 見つかったら1, 見つかなければ 0 を返す
int linearSearch(int n, int A[], int key) {
    int i = 0;
    A[n] = key; // 配列の末尾に番兵をセット
}

// 範囲チェック(i < n) が不要になる

```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

while (A[i] != key) {
    i++;
}
// 見つかった位置が末尾(番兵)でなければ真の発見
return i != n;
}

int main(void) {
    int n, q, key;
    int count = 0;

    // 数列 S の読み込み
    scanf("%d", &n);
    int S[n + 1]; // 番兵のために1つ多めに確保
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%d", &S[i]);
    }

    // 数列 T の読み込みと同時に探索を行なう
    scanf("%d", &q);
    for (int i = 0; i < q; i++) {
        scanf("%d", &key);
        // S 中に key の存在するかチェック
        if (linearSearch(n, S, key)) {
            count++;
        }
    }

    // 合計数を出力
    printf("%d\n", count);
    return 0;
}

```

FILE: ALDS1\_4\_B.c

```

/*
二分探索
個の整数を含む数列
と、
個の異なる整数を含む数列
を読み込み、
に含まれる整数の中で
に含まれるもののが假
を出力するプログラムを作成してください。

```

```

入力
1行目に
2行目に
を表す
個の整数、3行目に
、4行目に
を表す
個の整数が与えられます。
出力
を1行に出力してください。

```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

57/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

制約

○要素は昇順に整列されている  
○要素

○要素

○要素は互いに異なる

入力例 1

5

1 2 3 4 5

3

3 4 1

出力例 1

3

入力例 2

3

1 2 3

1

5

出力例 2

0

入力例 3

5

1 2 2 3

2

出力例 3

2

/\*
\*/
二分探索の解説

【二分探索と】  
整列済み配列に対して、目的の要素を高速に探しアルゴリズム

時間計算量: O(log n) ~ 線形探索のO(n)より圧倒的に高速

【アルゴリズムの仕組み】  
1. 探索範囲の中央の要素と目的の値を比較  
2. 一致すれば発見  
3. 目的の値が中央より大きければ左半分を探索  
4. 目的の値が中央より大きければ右半分を探索  
5. 探索範囲がなくなるまで繰り返す

【具体例】配列 [1, 2, 3, 4, 5] で key=4 を探し  
初期: left=0, right=4  
1回目: mid=2, S[2]=3 < 4 → 右側を探索 → left=3  
2回目: mid=3, S[3]=4 < 4 → 右側を探索 → left=4  
3回目: mid=4, S[4]=5 < 4 → 右側を探索 → left=5  
left > right のでループ終了 → 見つからない

【なぜ高速か】  
毎回探索範囲が半分になるため、n個の要素でも約 $\log_2(n)$ 回で終わる  
例: n=1000 ~ 約10回, n=1000000 ~ 約20回

【前提条件】  
配列が昇順 (または降順) に整列されている必要がある

/\*
\*/

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```

#include <stdio.h>

// 二分探索: keyが配列Sの中にあるなら1、なければ0を返す
int binarySearch(int S[], int key, int n) {
    int left = 0;
    int right = n - 1;
    int mid;

    // 左端が右端を追い越すまで続ける
    while (left <= right) {
        // 真ん中のインデックスを計算
        mid = (left + right) / 2;

        if (S[mid] == key) {
            return 1; // 見つかった
        } // keyの方が大きい → 右側(大きい方)を探す
        else if (S[mid] < key) {
            left = mid + 1; // 左端をmidの右隣へ
        } // keyの方が小さい → 左側(小さい方)を探す
        else {
            right = mid - 1; // 右端をmidの左隣へ
        }
    }
    return 0; // 最後まで見つからなかった
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    int S[n];
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%d", &S[i]);
    }

    int q;
    scanf("%d", &q);

    int count = 0;
    for (int i = 0; i < q; i++) {
        int key;
        scanf("%d", &key);
        // S中でkeyが存在するかチェック
        count += binarySearch(S, key, n);
    }

    printf("%d\n", count);
    return 0;
}

```

FILE: ALDS1\_4\_C.c

```

/*
説書
以下の命令を実行する簡易的な「説書」を実装してください。

```

localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

59/124



2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

/*
出力例 2
6
1台目のトラックに3つの荷物
2台目のトラックに1つの荷物
を積んで、最大積載量の最小値が 6 となります。
*/
/* 割り当て問題（二分探索の応用）の解説

【問題の本質】
最大積載量Pの最小値を求める最適化問題
→ [答え]に対する二分探索で解決

【アルゴリズムの仕組み】
1. 答えの範囲を決定
- 最小値: max(荷物の重さ) - 最大の荷物は必ず積める必要がある
- 最大値: sum(全荷物の重さ) - 全部を1台に積む場合

2. 二分探索で答えを探す
left = max(w[i]), right = sum(w[i])
while (left < right) {
    mid = (left + right) / 2
    if (check(mid)) - midで積める
        right = mid // より大きい値を探す
    else
        left = mid + 1 // より大きい値が必要
}
}

3. check関数: 容量Pで全荷物を1台以内に積めるか判定
- 荷物を順番に現在のトラックに積む
- 積めなくなったら次のトラックへ
- 使用台数が以下ならtrue
*/

【具体例】入力例1: n=5, k=3, w=[8,1,7,3,9]
初期: left=9 (最大荷物), right=28 (合計)
1回目: mid=18
check(18): [8,1,7] [3,9] - 2台で積める - right=18
2回目: left=9, right=18, mid=13
check(13): [8,1] [7,3] [9] - 3台で積める - right=13
3回目: left=9, right=13, mid=11
check(11): [8,1] [7,3] [9] - 3台で積める - right=11
4回目: left=9, right=11, mid=10
check(10): [8,1] [7,3] [9] - 3台で積める - right=10
5回目: left=9, right=10, mid=9
check(9): [8] [1,7] [3] [9] - 4台必要 - left=10
終了: left=10 - 答え10

【なぜこれが正しいのか】
- check(P)がtrueなら、P以上の値でもtrue（単調性）
- 二分探索で最小のtrueとなるPを見つける
- 計算量: O(n log(sum)) - 二分探索がO(log(sum))
*/
#include <stdio.h>
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

int n, k;
int w[100000];

// 最大積載量がkのとき、k台以内で全荷物を積めるか判定
int check(int P) {
    int i = 0;
    int trucks = 1; // 使用するトラック台数
    int current_load = 0; // 現在のトラックの積載量

    while (i < n) {
        // 荷物がトラックに積める場合
        if (current_load + w[i] <= P) {
            current_load += w[i];
            i++;
        } else {
            // 積めない場合、次のトラックへ
            trucks++;
            current_load = 0;
        }
    }

    return trucks <= k;
}

int main(void) {
    scanf("%d %d", &n, &k);

    int left = 0; // 最小値: 最大の荷物の重さ
    int right = 0; // 最大値: 全荷物の合計

    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%d", &w[i]);
        if (w[i] > left) {
            left = w[i];
        }
    }
    right += w[i];

    // 二分探索で最小の最大積載量を求める
    while (left < right) {
        int mid = (left + right) / 2;

        if (check(mid)) {
            // midで積める - より大きい値を探す
            right = mid;
        } else {
            // midで積めない - より大きい値が必要
            left = mid + 1;
        }
    }

    printf("%d\n", left);
    return 0;
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

FILE: ALDS1_5_A.c
-----
/*
配列
長さn
の整数
と整数
に対して、
の要素の中のいくつかの要素を足しあわせて
が作れるかどうかを判定するプログラムを作成してください。
各要素は一度だけ使うことができます。
*/

整数
が与えられたうえで、質問として
個の
質問
が含まれます。
質問
が含まれるので、それぞれについて "yes" または "no" と出力してください。

入力
1行目に
2行目に
を表す
個の整数、3行目に
4行目に
個の整数
が含まれます。
出力
各質問について
の要素を足しあわせて
を作ることが可能かを yes と、できなければ no と出力してください。
*/

制約
の要素
入力例 1
5
1 5 7 10 21
4
2 4 17 8
出力例 1
no
no
yes
yes
*/
/* 部分集合の和問題（動的計画法）の解説

【問題の本質】
配列Aの要素を0個以上使用して、各質問の数値を作れるかどうか判定
→ [i]の値が作れるか?

【アルゴリズムの仕組み】
1. possibleSums配列を用意（作れる値を記録）
2. possibleSums = [0] (何も足さない) からスタート
3. 配列Aの各要素について、現在作れる値に足した値も追加
4. 各質問について、possibleSumsに存在するか確認

【具体例】A = [1, 5, 7], 質問 = [1, 6, 8]
初期: possibleSums = [0]
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

int A[0]=1;
possibleSums[0] = 1;

i=1, A[1]=5;
possibleSums[0, 1] = [5, 6]
possibleSums = [0, 1, 5, 6]

i=2, A[2]=7;
possibleSums[0, 1, 5, 6] = 7を足す - [7, 8, 12, 13]
possibleSums = [0, 1, 5, 6, 7, 8, 12, 13]

質問: 1 - possibleSumsにがある - yes
質問: 6 - possibleSumsにがある - yes
質問: 8 - possibleSumsにがある - yes

【空間計算量】
- ループ回数: 質素数*作れる値の種類数
- 必要の場合は: O(n × n × max_sum)
- 作れる値の最大数は2^n (2nビット未満)

【空間計算量】
- O(2^n)の数値 = O(2^n)
- 最大で2^n個の異なる値を作れる

【実際の実験】
- A=[1,5,7,10,21]
質問: 2 - 1+1は不可 (1は1度だけ) - no
質問: 4 - 1+5=6, 5+1=15... 作れない - no
質問: 17 - 7+10=17 - yes
質問: 8 - 1+7=8 - yes
*/
#include <stdio.h>
#include <string.h>

#define MAX_SUM 1000001

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    int A[n];
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%d", &A[i]);
    }

    // possibleSums[i] = iが作れるかどうか (1で作れる、0で作れない)
    int possibleSums[MAX_SUM];
    memset(possibleSums, 0, sizeof(possibleSums));
    possibleSums[0] = 1; // 0は何も足さずに作れる

    // 質問の各要素について
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        // 大きい値から小さい値へ更新 (要素を2回以上使わないため)
        // 逆順ループして、既に計算された値を使わない
        for (int j = MAX_SUM - 1; j >= A[i]; j--) {
            // possibleSums[j-A[i]]がなら、j も作れる
            if (possibleSums[j-A[i]]) {
                possibleSums[j] = 1;
            }
        }
    }
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

66/124

68/124

2026/02/03 1:24

```
// 質問処理
int q;
scanf("%d", &q);

for (int i = 0; i < q; i++) {
    int query;
    scanf("%d", &query);

    if (query < MAX_SUM && possibleSums[query]) {
        printf("yes\n");
    } else {
        printf("no\n");
    }
}

return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_5\_B.c

```
/*
マージソート
マージソート (Merge Sort) は分割統治法に基づく高速なアルゴリズムで、次のように実装することができます。
```

```
merge(A, left, mid, right)
    n1 = mid - left;
    n2 = right - mid;
    L[0...n1], R[0...n2] を生成
    for i = 0 to n1-1
        L[i] = A[left + i]
    for i = n1 to right-1
        R[i] = A[mid + i]
    L[n1] = INFY
    R[n2] = INFY
    i = 0
    j = 0
    for k = left to right-1
        if L[i] <= R[j]
            A[k] = L[i]
            i = i + 1
        else
            A[k] = R[j]
            j = j + 1

    mergeSort(A, left, right)
    if left+1 < right
        mid = (left + right)/2;
        mergeSort(A, left, mid);
        mergeSort(A, mid, right)
        merge(A, left, mid, right)
    個の比較を含む配列
    を上に疑似コードに従ったマージソートで昇順に整列するプログラムを作成してください。また、mergeにおける比較回数の総数を報告してください。

```

入力

1行目に

2行目に

を表す

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
FILE: print_all.txt
2026/02/03 1:24
個の整数が与えられます。

出力
1行目に整列済みの数列
を出力してください。数列の競り合う要素は1つの空白で区切ってください。2行目に比較回数を出力してください。
```

```
割約
の要素
入力例 1
10
8 5 9 2 6 3 7 1 10 4
出力例 1
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
34
*/
/*
```

マージソートの解説

【マージソートとは】

分割統治法に基づく高速ソートアルゴリズム

時間計算量:  $O(n \log n)$  - 最悪の場合でも保証される

メモリ効率:  $O(1) - \text{補助配列が必要}$

【アルゴリズムの流れ】

- 配列を左右に分割 (分割フェーズ)
- 各部分を再帰的にソート
- ソート済みの両配列をマージ (併合フェーズ)

【具体例】 [8, 5, 9, 2, 6, 3, 7, 1]

■分割フェーズ:

[8, 5, 9, 2, 6, 3, 7, 1]

:分割

[8, 5, 9, 2] [6, 3, 7, 1]

:分割

[8, 5] [9, 2] [6, 3] [7, 1]

:分割

[8] [5] [9] [2] [6] [3] [7] [1]

■マージフェーズ (ボトムアップ) :

[8] [5] → [5, 8]

[9] [2] → [2, 9]

[6] [3] → [3, 6]

[7] [1] → [1, 7]

:マージ

[5, 8] [2, 9] → [2, 5, 8, 9]

[3, 6] [1, 7] → [1, 3, 6, 7]

:マージ

[2, 5, 8, 9] [1, 3, 6, 7] → [1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 9]

【マージ処理のポイント】

- 左側配列を (INFY) を追加
- 両端要素を比較
- より小さい方を結果配列に追加
- すべての要素が処理されるまで繰り返す

【なぜ  $O(n \log n)$  か】

- 分割の度数:  $\log n$
- 各レベルでのマージ処理: 全体で  $O(n)$
- 合計:  $(O(n \times \log n))$

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

FILE: print\_all.txt

【比較回数の計算例】

$n=10^9$ の場合、マージソートの比較回数は約  $n \log n = 33\sim34$  回

(実際には若干異なる可能性がある)

\*/

```
#include <stdio.h>
#include <string.h>

#define INFY 2000000000
#define MAX_N 500000

int A[MAX_N];
int LMAXN / 2 + 1;
int RMAXN / 2 + 1;
long long compare_count = 0;

// 左側からmid-1とmidからright-1の2つのソート済み配列をマージ
void mergeLime(int left, int mid, int right)
{
    int n1 = mid - left; // 左側のサイズ
    int n2 = right - mid; // 右側のサイズ

    // 左側を配列にコピー
    for (int i = 0; i < n1; i++) {
        L[i] = A[left + i];
    }

    // 右側を配列にコピー
    for (int i = 0; i < n2; i++) {
        R[i] = A[mid + i];
    }

    // 積み重ね
    for (int i = 0; i < n1; i++) {
        L[i] = R[i];
    }
}

// 2つのソート済み配列をマージ
for (int k = left; k < right; k++) {
    compare_count++; // 比較回数を記録
    if (L[i] <= R[j]) {
        A[k] = L[i];
        i++;
    } else {
        A[k] = R[j];
        j++;
    }
}

// マージソート本体
void mergesort(int left, int right) {
    // 要素が個々にある場合のみ分割
    if (left + 1 < right) {
        int mid = (left + right) / 2;

        // 左側をソート
        mergesort(left, mid);

        // 右側をソート
        mergesort(mid, right);
    }
}
```

```
void mergesort(int left, int right) {
    // 要素が個々にある場合のみ分割
    if (left + 1 < right) {
        int mid = (left + right) / 2;
```

```
        // 左側をソート
        mergesort(left, mid);

        // 右側をソート
    }
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

FILE: print\_all.txt

```
mergeSort(mid, right);

// ソート済みの左右をマージ
merge(left, mid, right);
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%d", &A[i]);
    }

    // マージソート実行
    mergeSort(0, n);

    // ソート結果の出力
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        if (i > 0) printf(" ");
        printf("%d", A[i]);
    }
    printf("\n");

    // 比較回数の出力
    printf("%lld\n", compare_count);
    return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_5\_C.c

/\*
コッホ曲線

整数

を入力し、深さ

の再帰呼び出しによって作成されるコッホ曲線の頂点の座標を出力するプログラムを作成してください。

コッホ曲線はフラクタルの一種として知られています。フラクタルとは再帰的な構造を持つ図形のことで、以下のように再帰的な関数の呼び出しを用いて描画することができます。

与えられた線分

を 3 等分する。

線分を 3 等分する 2 点

を頂点とする正三角形

を作成する。

線分

線分

線分

に同じして再帰的に同じ操作を繰り返す。

を端点とします。

p

入力

1 つの整数

が与えられます。

出力

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

70/124

2026/02/03 1:24

コッホ曲線の各頂点の座標  
を出してください。1行に1点の座標を出力してください。端点の1つ  
から始めて、一方の端点  
で終まるひと続きの線分となる順番を出力してください。出力は 0.0001 以下の誤差を含んでてもよいものとします。

制約  
入力例 1  
1  
出力例 1  
0.00000000 0.00000000  
33.33333333 0.00000000  
30.00000000 28.8751346  
66.66666667 0.00000000  
100.00000000 0.00000000  
入力例 2  
2

出力  
0.00000000 0.00000000  
11.11111111 0.00000000  
16.66666667 9.6258449  
22.22222222 0.00000000  
33.33333333 0.00000000  
38.88888889 9.6258449  
33.33333333 0.00000000  
44.44444444 19.2458097  
50.00000000 28.8751346  
55.55555556 19.2458097  
66.66666667 9.6258449  
61.11111111 9.6258449  
65.66666667 0.00000000  
77.77777778 0.00000000  
83.33333333 9.6258449  
88.88888889 0.00000000  
100.00000000 0.00000000

/\*

コッホ曲線（フラクタル図形）の解説

【ラクタントとは】  
自己相似な図形を再帰的に生成する構造  
コッホ曲線は「線分を3等分して、中央部分に正三角形の頂部を追加」する操作を繰り返す

【基本操作】  
与えられた線分 P1-P2 に対して:  
1. 線分を3等分する点を P1' と P2' とする  
P1' = P1 + (P2 - P1) / 3  
P2' = P1 + 2 \* (P2 - P1) / 3

2. P1' と P2' の上に正三角形を作る  
→ 頂点 P3 を計算 (60度回転)

3. 4つの新しい線分を生成:  
P1 → P1' → P3 → P2' → P2

4. 再帰的に各線分に同じ操作を繰り返す

【座標計算】  
P1' = P1 + (P2 - P1) / 3  
P2' = P1 + 2 \* (P2 - P1) / 3

P3は P1' と P2' 上の正三角形の頂点:

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

print\_all.txt

2026/02/03 1:24

dx = P2'.x - P1'.x  
dy = P2'.y - P1'.y  
P3.x = P1'.x + (dx - sqrt(3)\*dy) / 2  
P3.y = P1'.y + (dx+sqrt(3) + dy) / 2

【具体例】 n=1, 初期線分 (0,0)-(100,0)  
面積10回操作:  
P1' = (33.33, 0)  
P2' = (66.67, 0)  
P3 = (50, 28.87)  
出力: (0,0) ~ (33.33,0) ~ (50,28.87) ~ (66.67,0) ~ (100,0)

【苦惱の終了条件】  
深さが0になったら、線分 P1-P2 をそのまま出力

【出力形式】  
全ての頂点を最も順番に1行ずつ出力  
/\*

```
#include <stdio.h>
#include <math.h>

// 2次元の点を表す構造体
typedef struct {
    double x;
    double y;
} Point;

// コッホ曲線を再帰的に描画
void koch(Point p1, Point p2, int depth) {
    if (depth == 0) {
        // 深さが0とき、線分の終点を出力
        printf("%.8f %.8f\n", p2.x, p2.y);
        return;
    }

    // 線分を3等分する点を計算
    Point p1_new, p2_new, p3;

    // 線分の1/3点
    p1_new.x = p1.x + (p2.x - p1.x) / 3.0;
    p1_new.y = p1.y + (p2.y - p1.y) / 3.0;

    // 線分の2/3点
    p2_new.x = p1.x + 2.0 * (p2.x - p1.x) / 3.0;
    p2_new.y = p1.y + 2.0 * (p2.y - p1.y) / 3.0;

    // p1_new と p2_new 上に正三角形を作る
    // 中央の頂点 p3 を計算 (60度回転)
    double dx = p2_new.x - p1_new.x;
    double dy = p2_new.y - p1_new.y;

    p3.x = p1_new.x + (dx - sqrt(3)*dy) / 2.0;
    p3.y = p1_new.y + (dx+sqrt(3) + dy) / 2.0;

    // 再帰的に4つの線分を処理
    // P1 = P1' - P3 - P2
    koch(p1, p1_new, depth - 1);
    koch(p1_new, p3, depth - 1);
    koch(p3, p2_new, depth - 1);
    koch(p2_new, p2, depth - 1);
}
```

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

75/124

print\_all.txt

2026/02/03 1:24

3 1 2  
出力例 2  
2  
\*/

/\*  
反転数をマージソートで効率的に計算する解説  
【反転数とは】  
1 < j かつ A[i] > A[j] である組(i, j)の個数  
- ソートに必要な交換回数と等しい

【なぜパルソートではTLEか】  
パルソートアルゴリズム:  
for i = 0 to n-1  
 for j = n-1 downto i+1  
 if A[i] < A[j-1]  
 swap

時間計算量: O(n^2)  
n=1000000の場合、約10^10回の操作で間に合わない

【マージソートで効率化】  
マージソートはO(n log n)で、その過程で反転数を計算できる  
■分割フェーズで反転数をカウント:  
マージ時、左配列の要素が右配列の要素より大きい場合、  
左配列の残り全ての要素は反転数を形成

■具体例: [3, 5, 2, 1, 4]  
分割: [3, 5] [2, 1, 4]

[3, 5] - 反転数 1 (3>5でない、5>3で反転1)

[2, 1, 4] - [2, 1] [4]

[2, 1] - 反転数 1 (2>1)

[4] - 反転数 0

マージ [2, 1] と [4]: 反転数 0  
結果 [1, 2, 3, 4]

マージ [3, 5] と [1, 2, 4]:

3 vs 1: 1 < 3 - 反転数 +2 (3,5)

2 vs 3: 2 < 3 - 反転数 +1 (3)

...

【マージでの反転数計算】

左配列のインデックスi、右配列のインデックスjで比較:  
if (L[i] > R[j]) -> 反転数 += (n1 - i)  
理由: 以後の左配列すべての要素はR[j]より大きい

【具体例】

[3, 5] と [2]

3 > 2: 反転数 += (-2-0) = 2

/\*

#include <stdio.h>

#include <string.h>

#define MAX\_N 500000

#define INTY 2000000001

int A[MAX\_N];

int L[MAX\_N];

int R[MAX\_N];

int M[MAX\_N];

int N[MAX\_N];

int O[MAX\_N];

int P[MAX\_N];

int Q[MAX\_N];

int S[MAX\_N];

int T[MAX\_N];

int U[MAX\_N];

int V[MAX\_N];

int W[MAX\_N];

int X[MAX\_N];

int Y[MAX\_N];

int Z[MAX\_N];

int AA[MAX\_N];

int BB[MAX\_N];

int CC[MAX\_N];

int DD[MAX\_N];

int EE[MAX\_N];

int FF[MAX\_N];

int GG[MAX\_N];

int HH[MAX\_N];

int II[MAX\_N];

int JJ[MAX\_N];

int KK[MAX\_N];

int LL[MAX\_N];

int MM[MAX\_N];

int NN[MAX\_N];

int OO[MAX\_N];

int PP[MAX\_N];

int QQ[MAX\_N];

int RR[MAX\_N];

int SS[MAX\_N];

int TT[MAX\_N];

int UU[MAX\_N];

int VV[MAX\_N];

int WW[MAX\_N];

int XX[MAX\_N];

int YY[MAX\_N];

int ZZ[MAX\_N];

int AA[MAX\_N];

int BB[MAX\_N];

int CC[MAX\_N];

int DD[MAX\_N];

int EE[MAX\_N];

int FF[MAX\_N];

int GG[MAX\_N];

int HH[MAX\_N];

int II[MAX\_N];

int JJ[MAX\_N];

int KK[MAX\_N];

int LL[MAX\_N];

int MM[MAX\_N];

int NN[MAX\_N];

int OO[MAX\_N];

int PP[MAX\_N];

int QQ[MAX\_N];

int RR[MAX\_N];

int SS[MAX\_N];

int TT[MAX\_N];

int UU[MAX\_N];

int VV[MAX\_N];

int WW[MAX\_N];

int XX[MAX\_N];

int YY[MAX\_N];

int ZZ[MAX\_N];

int AA[MAX\_N];

int BB[MAX\_N];

int CC[MAX\_N];

int DD[MAX\_N];

int EE[MAX\_N];

int FF[MAX\_N];

int GG[MAX\_N];

int HH[MAX\_N];

int II[MAX\_N];

int JJ[MAX\_N];

int KK[MAX\_N];

int LL[MAX\_N];

int MM[MAX\_N];

int NN[MAX\_N];

int OO[MAX\_N];

int PP[MAX\_N];

int QQ[MAX\_N];

int RR[MAX\_N];

int SS[MAX\_N];

int TT[MAX\_N];

int UU[MAX\_N];

int VV[MAX\_N];

int WW[MAX\_N];

int XX[MAX\_N];

int YY[MAX\_N];

int ZZ[MAX\_N];

int AA[MAX\_N];

int BB[MAX\_N];

int CC[MAX\_N];

int DD[MAX\_N];

int EE[MAX\_N];

int FF[MAX\_N];

int GG[MAX\_N];

int HH[MAX\_N];

int II[MAX\_N];

int JJ[MAX\_N];

int KK[MAX\_N];

int LL[MAX\_N];

int MM[MAX\_N];

int NN[MAX\_N];

int OO[MAX\_N];

int PP[MAX\_N];

int QQ[MAX\_N];

int RR[MAX\_N];

int SS[MAX\_N];

int TT[MAX\_N];

int UU[MAX\_N];

int VV[MAX\_N];

int WW[MAX\_N];

int XX[MAX\_N];

int YY[MAX\_N];

int ZZ[MAX\_N];

int AA[MAX\_N];

int BB[MAX\_N];

int CC[MAX\_N];

int DD[MAX\_N];

int EE[MAX\_N];

int FF[MAX\_N];

int GG[MAX\_N];

int HH[MAX\_N];

int II[MAX\_N];

int JJ[MAX\_N];

int KK[MAX\_N];

int LL[MAX\_N];

int MM[MAX\_N];

int NN[MAX\_N];

int OO[MAX\_N];

int PP[MAX\_N];

int QQ[MAX\_N];

int RR[MAX\_N];

int SS[MAX\_N];

int TT[MAX\_N];

int UU[MAX\_N];

int VV[MAX\_N];

int WW[MAX\_N];

int XX[MAX\_N];

int YY[MAX\_N];

int ZZ[MAX\_N];

int AA[MAX\_N];

int BB[MAX\_N];

int CC[MAX\_N];

int DD[MAX\_N];

int EE[MAX\_N];

int FF[MAX\_N];

int GG[MAX\_N];

int HH[MAX\_N];

int II[MAX\_N];

int JJ[MAX\_N];

int KK[MAX\_N];

int LL[MAX\_N];

int MM[MAX\_N];

int NN[MAX\_N];

int OO[MAX\_N];

int PP[MAX\_N];

int QQ[MAX\_N];

int RR[MAX\_N];

int SS[MAX\_N];

int TT[MAX\_N];

int UU[MAX\_N];

int VV[MAX\_N];

int WW[MAX\_N];

int XX[MAX\_N];

int YY[MAX\_N];

int ZZ[MAX\_N];

2026/02/03 1:24

```
int R[MAX_N / 2 + 1];
long long inv_count = 0;

// マージしながら反転数をカウント
void mergeLeft(int left, int mid, int right) {
    int n1 = mid - left; // 左側のサイズ
    int n2 = right - mid; // 右側のサイズ

    // 左側を配列にコピー
    for (int i = 0; i < n1; i++) {
        L[i] = A[left + i];
    }

    // 右側を配列にコピー
    for (int i = 0; i < n2; i++) {
        R[i] = A[mid + i];
    }

    // 空兵を追加
    L[n1] = INFY;
    R[n2] = INFY;

    int i = 0; // L配列のインデックス
    int j = 0; // R配列のインデックス

    // マージ
    for (int k = left; k < right; k++) {
        if (L[i] <= R[j]) {
            A[k] = L[i];
            i++;
        } else {
            A[k] = R[j];
            j++;
        }
        // 反転数を追加
        // L[i]は既読の要素がすべてR[j]より大きいので、
        // R[i-1]の反転数が存在する
        inv_count += (long long)(n1 - i);
    }
}

// マージソート (反転数を記録)
void mergeSort(int left, int right) {
    if (left > right) {
        int mid = (left + right) / 2;

        // 左側をソート
        mergeSort(left, mid);

        // 右側をソート
        mergeSort(mid, right);

        // ソート済みの左右をマージ (反転数をカウント)
        merge(left, mid, right);
    }
}

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
2026/02/03 1:24
for (int i = 0; i < n; i++) {
    scanf("%d", &A[i]);
}

// マージソート実行 (反転数をカウント)
mergeSort(0, n);

// 反転数を出力
printf("%lld\n", inv_count);
return 0;
}

FILE: ALDS1_6_A.c
-----
/*
* 計数ソート
* 計数ソートは各要素が 0 以上
* 以下の要素の数をカウント配列
* これをもとに、その値に基づいた出力配列
* における位置を求めます。同じ数の要素が複数ある場合を考慮して、要素
* を出力（
* に入れる）した後にカウント
* は修正する必要があります。詳しくは以下の疑似コードを参考にしてください。
*
* 1 CountingSort(A, B, k)
* 2     for i = 0 to k
* 3         C[i] = 0
* 4
* 5     // C[i] に i の出現数を記録する
* 6     for j = 0 to n
* 7         C[A[j]]++
* 8
* 9     // C[i] に i 以下の数の出現数を記録する
* 10    for i = 1 to k
* 11        C[i] = C[i] + C[i-1]
* 12
* 13    for j = n downto 1
* 14        B[C[A[j]]] = A[j]
* 15        C[A[j]]--
* 数列
* を読み込み、計数ソートのアルゴリズムで昇順に並び替える出力を作成してください。上記疑似コードに従ってアルゴリズムを実装してください。
*
* 入力
* 入力の最初の行に、数列
* の長さを表す整数
* が与えられます。2 行目に、
* 個の整数が空白区切りで与えられます。
*
* 出力
* 整列された数列を1行に出力してください。数列の連続する要素は1つの空白で区切って出力してください。
*/
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

78/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
制約
-----  

* 入力例 1  

7  

2 5 1 3 2 3 0  

出力例 1  

0 3 2 2 3 3 5  

*/  

/*  

* 計数ソートの解説
* 【計数ソート】は
* 整数のみに対して使える特殊なソートアルゴリズム
* 時間計算量: O(n * k) - 要素数nと最大値kに依存
* 安全ソート: 同じ値の要素の相対順序が保たれる
* 【比較高効率】
* 比較ソート (クイックソート、マージソートなど) の限界はO(n log n)
* しかし計数ソートは「比較」を行わず、各値の出現位置を直接計算
* 【ルゴリズムの流れ】
1. 配列の出現回数をカウント
    例: A = [2, 5, 1, 3, 2, 3, 0]
    C = [1, 2, 4, 6, 5, 7] (C[i]はiの出現回数)
2. 配列を累積和に変換
    各値より大きい値がいくつあるか記録
    C = [1, 2, 4, 6, 6, 7] (C[i]はi以下の値の個数)
3. 後ろからへ走查して出力の位置を確定
    - A[0] = A[7] = 0 - (0)=1= - B[1]=0, C[0]=-
    - A[6] = A[6] = 3 - (3)=6 - B[6]=3, C[3]=-
    ... (後ろからへ処理することで安定性を実現)
```

【具体例】A = [2, 5, 1, 3, 2, 3, 0]

■ステップ1: 出現回数をカウント  
 C配列: [1, 1, 2, 2, 0, 1]  
 0は1回、1は1回、2は2回、3は2回、4は0回、5は1回

■ステップ2: 累積和に変換  
 C配列: [1, 2, 4, 6, 7]  
 0以下: 1回、1以上: 2回、2以上: 4回、3以下: 6個、...  
 結果: B = [\_, 0, 1, 2, 2, 3, 3, 5]

【なぜ後ろから処理するのか】  
 同じ値が複数ある場合、後ろから処理することで  
 元の配列での相対順序を保つ(安定性)

【約束】

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
2026/02/03 1:24
-----  

* 他の0以上上の整数のみに対応
* 値が非常に大きいと、C配列が巨大になり不効率
*/
#include <stdio.h>
#include <string.h>

#define MAX_N 100001
#define MAX_K 100001

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    int A[n + 1];
    int k = 0; // 最大値を記録

    for (int i = 1; i <= n; i++) {
        scanf("%d", &A[i]);
        if (A[i] > k) {
            k = A[i];
        }
    }

    // C配列: 出現回数と累積和を記録
    int C[k + 1];
    memset(C, 0, sizeof(C));

    // ステップ1: 各値の出現回数をカウント
    for (int j = 1; j <= n; j++) {
        C[A[j]]++;
    }

    // ステップ2: 累積和に変換 (i以下の値の個数)
    for (int i = 1; i <= k; i++) {
        C[i] = C[i] + C[i - 1];
    }

    // B配列: 出力結果を格納
    int B[n + 1];

    // ステップ3: 後ろから処理 (安定性を保つ)
    for (int j = n; j >= 1; j--) {
        B[C[A[j]]] = A[j];
        C[A[j]]--;
    }

    // 出力
    for (int i = 1; i <= n; i++) {
        if (i > 1) printf(" ");
        printf("%d", B[i]);
    }
    printf("\n");
    return 0;
}

FILE: ALDS1_6_B.c
-----  

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

80/124

```
2026/02/03 1:24  
partition_all.txt  
  
/*  
Partition  
partition ( A, p, r ) は、配列 A[ p..r ] を A[ p..q - 1 ] の各要素が A[q] 以下で、A[ q +1.. r ] の各要素が A[ q ] より大きい A[ p..q - 1 ] と A[ q +1.. r ] に分割し、インデックス q を戻り値として返します。  
数列  
を読み込み、次の疑似コードに基づいた partition を行うプログラムを作成してください。  
  
1 partition(A, p, r)  
2   i = p-1  
3   for j = p to r-1  
4     if A[j] <= x  
5       i = i+1  
6       A[i] と A[j] を交換  
7     A[i] と A[r] を交換  
8   return i+1  
 ここで、  
 は分割  
の前の要素をすくね字で、  
を基準として配列を分割することに注意してください。  
  
入力  
入力の最初の行に、数列  
の要素を表す整数  
が与えられます。2行目に、  
個の整数。  
( ) が空白区切りで与えられます。  
  
出力  
分割された数列を1行に出力してください。数列の連続する要素は1つの空白で区切って出力してください。また、partition の基準となる要素を [ ] で示してください。  
  
制約  
入力例 1  
12  
13 19 9 5 12 8 7 4 21 2 6 11  
出力例 1  
9 5 8 7 4 2 6 [11] 21 13 19 12  
*/  
  
/*  
Partition (分離) の解説  
  
【PartitionとH】  
クイックソートの基本となるアルゴリズム  
基準（ピボット）よりも小さい要素と大きい要素に分割  
  
【基本的な考え方】  
- 最後の要素を基準値xとして選択  
- 2つのポイント（jとi）を使用して分割  
- i: 基準値以下の要素がある領域の末端  
- j: スキャン中の位置  
  
【Partitionのアルゴリズム】  
  
■最初の状態  
配列: [13, 19, 9, 5, 12, 8, 7, 4, 21, 2, 6, 11]  
基準値: = 11 (最後の要素)  
i = -1 (初期値id-1)  
  
■スティップごとの処理  
j=0: A[0]=13 > 11 - スキップ  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
2026/02/03 1:24  
partition_all.txt  
  
j=1: A[1]=19 > 11 - スキップ  
j=2: A[2]=9 <= 11 - i=0, swap(A[0], A[2]): [9, 19, 13, 5, 12, 8, 7, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=3: A[3]=5 <= 11 - i=1, swap(A[1], A[3]): [9, 5, 13, 19, 12, 8, 7, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=4: A[4]=12 > 11 - スキップ  
j=5: A[5]=8 <= 11 - i=2, swap(A[2], A[5]): [9, 5, 8, 19, 12, 13, 7, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=6: A[6]=7 <= 11 - i=3, swap(A[3], A[6]): [9, 5, 8, 7, 12, 13, 9, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=7: A[7]=21 > 11 - i=4, swap(A[4], A[7]): [9, 5, 8, 7, 4, 15, 19, 12, 21, 2, 6, 11]  
j=8: A[8]=21 > 11 - i=5, swap(A[5], A[8]): [9, 5, 8, 7, 4, 2, 19, 12, 21, 13, 6, 11]  
j=9: A[9]=2 <= 11 - i=6, swap(A[6], A[9]): [9, 5, 8, 7, 4, 2, 19, 12, 21, 13, 6, 11]  
j=10: A[10]=6 <= 11 - i=7, swap(A[7], A[10]): [9, 5, 8, 7, 4, 2, 6, 12, 21, 13, 19, 11]  
  
■最後のピボット配置  
swap(A[i+1], A[r]): swap(A[7], A[11])  
結果: [9, 5, 8, 7, 4, 2, 6, 11, 21, 13, 19, 12]  
基準値11は位置7に確定  
  
【重要なポイント】  
1. 1つ以上の要素の要素が格納される領域を管理  
2. いわゆるピボットの最終位置  
3. 左側: 全てxより小さい  
4. 右側: 全てxより大きい  
  
【計算量】  
時間計算量: O(n) - 配列を1回走査  
空間計算量: O(1) - インプレース処理  
*/  
  
#include <stdio.h>  
  
// partition函数  
// 配列A[p..r]範囲でピボット A[r] に基準に分割  
// 現在: 分割後のピボット位置  
int partition(int A[], int p, int r) {  
    int x = A[r]; // ピボット: 最後の要素  
    int i = p - 1; // 基準値以下の要素がある領域の末端  
  
    // j を p から r-1 まで走査  
    for (int j = p; j < r; j++) {  
        // A[j] が基準値以下なら、i+1の位置に移動  
        if (A[j] <= x) {  
            i++;  
            // A[i] と A[j] を交換  
            int temp = A[i];  
            A[i] = A[j];  
            A[j] = temp;  
        }  
  
        // ピボットを最終位置に配置  
        int temp = A[i + 1];  
        A[i + 1] = A[r];  
        A[r] = temp;  
    }  
  
    return i + 1; // 分割位置を返す  
}  
  
int main(void) {  
    int n;  
    scanf("%d", &n);  
  
    int A[n];  
    for (int i = 0; i < n; i++) {  
        // 乱数生成  
        A[i] = rand() % 20 + 1;  
    }  
  
    // ピボット選択  
    int pivot = A[n - 1];  
  
    // パーティション実行  
    int q = partition(A, 0, n - 1);  
  
    // 分割された結果を出力  
    for (int i = 0; i < n; i++) {  
        if (i > q) printf(" ");  
        else if (i == q) {  
            // ピボット位置は[]で囲む  
            printf("[%d]", A[i]);  
        } else {  
            printf("%d", A[i]);  
        }  
    }  
    printf("\n");  
  
    return 0;  
}  
  
-----  
FILE: ALDS1_6_C.c  
  
/*  
クイックソート  
枚のカードの列を整列します。1枚のカードは絵柄(S, H, C, またはD)と数字のペアで構成されています。これらを以下の疑似コードに基づくクイックソートで数字に関して昇順に整列するプログラムを作成してください。partition は ALDS1_6_B の疑似コード  
*/  
  
1 quickSort(A, p, r)  
2   if p < r  
3     q = partition(A, p, r)  
4     quickSort(A, p, q-1)  
5     quickSort(A, q+1, r)  
 ここで、  
 はカードが格納された配列であり、partition における比較演算はカードに書かれた「数」を基準に行われるものとします。  
  
また、与えられた入力に対して安定な出力を実現してください。ここでは、同じ数字を持つカードが複数ある場合、それらが入力で与えられた順序であらわれる出力を「安定な出力」とします。  
  
入力  
1行目にカードの枚数  
が与えられます。  
2行目以降で、枚のカードが与えられます。各カードは絵柄を表す1つの文字と数（整数）のペアで1行に与えられます。絵柄と数は1つの空白で区切られています。  
  
出力  
1行目に、この出力が安定か否か（StableまたはNot stable）を出力してください。  
2行目以降で、入力と同様の形式で整列されたカードを順番に表示してください（  
を出力する必要はありません）。  
  
制約  
カードに書かれている数  
に入力した数の組が同じカードは2枚以上含まれない  
入力例 1  
6  
D 3  
H 2  
D 1  
S 3  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
8/1/124  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
2026/02/03 1:24  
partition_all.txt  
  
D 2  
C 1  
出力例 1  
Not stable  
D 1  
L 1  
D 2  
H 2  
D 3  
S 3  
入力例 2  
Z  
S 1  
H 1  
出力例 2  
Stable  
S 1  
H 1  
*/  
  
-----  
FILE: ALDS1_6_C.c  
  
/*  
クイックソートとは  
分割抽出型のソートアルゴリズム  
平均時間計算量: O(n log n)  
最悪時間計算量: O(n^2) - ピボット選択が悪い場合  
  
【安定性について】  
クイックソートは「不安定なソート」  
理由: partition で要素が大きくなると、同じidの要素が大きくなるため、同じidの要素の相対順序が保証されない  
  
【決定性の判断ロジック】  
ソート後に隣接する要素をチェック:  
- 同じidのカードが並んでいて、先のidが大きい - "Not stable"  
- 先のidが順序がずつ保たれていない - "Stable"  
  
例: (H,2)がid=1, (D,2)がid=3 の場合  
入力順: id1 (H,2) - id3 (D,2)  
ソート後: id3 (D,2) - id1 (H,2) - 逆転 - Not stable  
  
【イッカクソートの流れ】  
1. 最後の要素をピボットとして選択  
2. partition で分割  
3. 左側を再帰的にソート  
  
【具体例】  
D, H2, D1, S2, C1  
各カードは元のid 付与:  
D(id=0), H2(id=1), D1(id=2), S3(id=3), D2(id=4), C1(id=5)  
  
ソート結果:  
D1(id=2), C1(id=5), D2(id=4), H2(id=1), D3(id=0), S3(id=3)  
  
ソート後、同じidの隣接ペアをチェック:  
- D1,C1: 値が異なる  
- C1,D2: 値が異なる  
- D2,H2: 値が異なる  
- H2,D3: 値が異なる  
- D3,S3: 値が異なる  
  
同じidのペア: なし  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
8/1/124  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
2026/02/03 1:24  
partition_all.txt  
  
D 2  
C 1  
出力例 1  
Not stable  
D 1  
L 1  
D 2  
H 2  
D 3  
S 3  
入力例 2  
Z  
S 1  
H 1  
出力例 2  
Stable  
S 1  
H 1  
*/  
  
-----  
FILE: ALDS1_6_C.c  
  
/*  
クイックソート  
枚のカードの列を整列します。1枚のカードは絵柄(S, H, C, またはD)と数字のペアで構成されています。これらを以下の疑似コードに基づくクイックソートで数字に関して昇順に整列するプログラムを作成してください。partition は ALDS1_6_B の疑似コード  
*/  
  
1 quickSort(A, p, r)  
2   if p < r  
3     q = partition(A, p, r)  
4     quickSort(A, p, q-1)  
5     quickSort(A, q+1, r)  
 ここで、  
 はカードが格納された配列であり、partition における比較演算はカードに書かれた「数」を基準に行われるものとします。  
  
また、与えられた入力に対して安定な出力を実現してください。ここでは、同じ数字を持つカードが複数ある場合、それらが入力で与えられた順序であらわれる出力を「安定な出力」とします。  
  
入力  
1行目にカードの枚数  
が与えられます。  
2行目以降で、枚のカードが与えられます。各カードは絵柄を表す1つの文字と数（整数）のペアで1行に与えられます。絵柄と数は1つの空白で区切られています。  
  
出力  
1行目に、この出力が安定か否か（StableまたはNot stable）を出力してください。  
2行目以降で、入力と同様の形式で整列されたカードを順番に表示してください（  
を出力する必要はありません）。  
  
制約  
カードに書かれている数  
に入力した数の組が同じカードは2枚以上含まれない  
入力例 1  
6  
D 3  
H 2  
D 1  
S 3  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
8/1/124  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
2026/02/03 1:24  
partition_all.txt  
  
D 2  
C 1  
出力例 1  
Not stable  
D 1  
L 1  
D 2  
H 2  
D 3  
S 3  
入力例 2  
Z  
S 1  
H 1  
出力例 2  
Stable  
S 1  
H 1  
*/  
  
-----  
FILE: ALDS1_6_C.c  
  
/*  
クイックソート  
枚のカードの列を整列します。1枚のカードは絵柄(S, H, C, またはD)と数字のペアで構成されています。これらを以下の疑似コードに基づくクイックソートで数字に関して昇順に整列するプログラムを作成してください。partition は ALDS1_6_B の疑似コード  
*/  
  
1 quickSort(A, p, r)  
2   if p < r  
3     q = partition(A, p, r)  
4     quickSort(A, p, q-1)  
5     quickSort(A, q+1, r)  
 ここで、  
 はカードが格納された配列であり、partition における比較演算はカードに書かれた「数」を基準に行われるものとします。  
  
また、与えられた入力に対して安定な出力を実現してください。ここでは、同じ数字を持つカードが複数ある場合、それらが入力で与えられた順序であらわれる出力を「安定な出力」とします。  
  
入力  
1行目にカードの枚数  
が与えられます。  
2行目以降で、枚のカードが与えられます。各カードは絵柄を表す1つの文字と数（整数）のペアで1行に与えられます。絵柄と数は1つの空白で区切られています。  
  
出力  
1行目に、この出力が安定か否か（StableまたはNot stable）を出力してください。  
2行目以降で、入力と同様の形式で整列されたカードを順番に表示してください（  
を出力する必要はありません）。  
  
制約  
カードに書かれている数  
に入力した数の組が同じカードは2枚以上含まれない  
入力例 1  
6  
D 3  
H 2  
D 1  
S 3  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
8/1/124  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
print_all.txt
```

```
2026/02/03 1:24  
partition_all.txt  
  
j=1: A[1]=19 > 11 - スキップ  
j=2: A[2]=9 <= 11 - i=0, swap(A[0], A[2]): [9, 19, 13, 5, 12, 8, 7, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=3: A[3]=5 <= 11 - i=1, swap(A[1], A[3]): [9, 5, 13, 19, 12, 8, 7, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=4: A[4]=12 > 11 - スキップ  
j=5: A[5]=8 <= 11 - i=2, swap(A[2], A[5]): [9, 5, 8, 19, 12, 13, 7, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=6: A[6]=7 <= 11 - i=3, swap(A[3], A[6]): [9, 5, 8, 7, 12, 13, 9, 4, 21, 2, 6, 11]  
j=7: A[7]=21 > 11 - i=4, swap(A[4], A[7]): [9, 5, 8, 7, 4, 15, 19, 12, 21, 2, 6, 11]  
j=8: A[8]=21 > 11 - i=5, swap(A[5], A[8]): [9, 5, 8, 7, 4, 2, 19, 12, 21, 13, 6, 11]  
j=9: A[9]=2 <= 11 - i=6, swap(A[6], A[9]): [9, 5, 8, 7, 4, 2, 19, 12, 21, 13, 6, 11]  
j=10: A[10]=6 <= 11 - i=7, swap(A[7], A[10]): [9, 5, 8, 7, 4, 2, 6, 12, 21, 13, 19, 11]  
  
■最後のピボット配置  
swap(A[i+1], A[r]): swap(A[7], A[11])  
結果: [9, 5, 8, 7, 4, 2, 6, 11, 21, 13, 19, 12]  
基準値11は位置7に確定  
  
【重要なポイント】  
1. 1つ以上の要素の要素が格納される領域を管理  
2. いわゆるピボットの最終位置  
3. 左側: 全てxより小さい  
4. 右側: 全てxより大きい  
  
【計算量】  
時間計算量: O(n) - 配列を1回走査  
空間計算量: O(1) - インプレース処理  
*/  
  
#include <stdio.h>  
  
// partition函数  
// 配列A[p..r]範囲でピボット A[r] に基準に分割  
// 現在: 分割後のピボット位置  
int partition(int A[], int p, int r) {  
    int x = A[r]; // ピボット: 最後の要素  
    int i = p - 1; // 基準値以下の要素がある領域の末端  
  
    // j を p から r-1 まで走査  
    for (int j = p; j < r; j++) {  
        // A[j] が基準値以下なら、i+1の位置に移動  
        if (A[j] <= x) {  
            i++;  
            // A[i] と A[j] を交換  
            int temp = A[i];  
            A[i] = A[j];  
            A[j] = temp;  
        }  
  
        // ピボットを最終位置に配置  
        int temp = A[i + 1];  
        A[i + 1] = A[r];  
        A[r] = temp;  
    }  
  
    return i + 1; // 分割位置を返す  
}  
  
int main(void) {  
    int n;  
    scanf("%d", &n);  
  
    int A[n];  
    for (int i = 0; i < n; i++) {  
        // 乱数生成  
        A[i] = rand() % 20 + 1;  
    }  
  
    // ピボット選択  
    int pivot = A[n - 1];  
  
    // パーティション実行  
    int q = partition(A, 0, n - 1);  
  
    // 分割された結果を出力  
    for (int i = 0; i < n; i++) {  
        if (i > q) printf(" ");  
        else if (i == q) {  
            // ピボット位置は[]で囲む  
            printf("[%d]", A[i]);  
        } else {  
            printf("%d", A[i]);  
        }  
    }  
    printf("\n");  
  
    return 0;  
}  
  
-----  
FILE: ALDS1_6_C.c  
  
/*  
クイックソート  
枚のカードの列を整列します。1枚のカードは絵柄(S, H, C, またはD)と数字のペアで構成されています。これらを以下の疑似コードに基づくクイックソートで数字に関して昇順に整列するプログラムを作成してください。partition は ALDS1_6_B の疑似コード  
*/  
  
1 quickSort(A, p, r)  
2   if p < r  
3     q = partition(A, p, r)  
4     quickSort(A, p, q-1)  
5     quickSort(A, q+1, r)  
 ここで、  
 はカードが格納された配列であり、partition における比較演算はカードに書かれた「数」を基準に行われるものとします。  
  
また、与えられた入力に対して安定な出力を実現してください。ここでは、同じ数字を持つカードが複数ある場合、それらが入力で与えられた順序であらわれる出力を「安定な出力」とします。  
  
入力  
1行目にカードの枚数  
が与えられます。  
2行目以降で、枚のカードが与えられます。各カードは絵柄を表す1つの文字と数（整数）のペアで1行に与えられます。絵柄と数は1つの空白で区切られています。  
  
出力  
1行目に、この出力が安定か否か（StableまたはNot stable）を出力してください。  
2行目以降で、入力と同様の形式で整列されたカードを順番に表示してください（  
を出力する必要はありません）。  
  
制約  
カードに書かれている数  
に入力した数の組が同じカードは2枚以上含まれない  
入力例 1  
6  
D 3  
H 2  
D 1  
S 3  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
print_all.txt
```

```
2026/02/03 1:24  
partition_all.txt  
  
D 2  
C 1  
出力例 1  
Not stable  
D 1  
L 1  
D 2  
H 2  
D 3  
S 3  
入力例 2  
Z  
S 1  
H 1  
出力例 2  
Stable  
S 1  
H 1  
*/  
  
-----  
FILE: ALDS1_6_C.c  
  
/*  
クイックソート  
枚のカードの列を整列します。1枚のカードは絵柄(S, H, C, またはD)と数字のペアで構成されています。これらを以下の疑似コードに基づくクイックソートで数字に関して昇順に整列するプログラムを作成してください。partition は ALDS1_6_B の疑似コード  
*/  
  
1 quickSort(A, p, r)  
2   if p < r  
3     q = partition(A, p, r)  
4     quickSort(A, p, q-1)  
5     quickSort(A, q+1, r)  
 ここで、  
 はカードが格納された配列であり、partition における比較演算はカードに書かれた「数」を基準に行われるものとします。  
  
また、与えられた入力に対して安定な出力を実現してください。ここでは、同じ数字を持つカードが複数ある場合、それらが入力で与えられた順序であらわれる出力を「安定な出力」とします。  
  
入力  
1行目にカードの枚数  
が与えられます。  
2行目以降で、枚のカードが与えられます。各カードは絵柄を表す1つの文字と数（整数）のペアで1行に与えられます。絵柄と数は1つの空白で区切られています。  
  
出力  
1行目に、この出力が安定か否か（StableまたはNot stable）を出力してください。  
2行目以降で、入力と同様の形式で整列されたカードを順番に表示してください（  
を出力する必要はありません）。  
  
制約  
カードに書かれている数  
に入力した数の組が同じカードは2枚以上含まれない  
入力例 1  
6  
D 3  
H 2  
D 1  
S 3  
localhost:64406/31b3d4b9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

```
print_all.txt
```

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

ただし全要素をチェック：  
- H2(id=i) と D2(id=4): 値が同じで id順序が入力順と異なる可能性  
- 実装では隣接ペアのみチェック

【実験のスクリプト】  
1. DATA構造体に `c (値), a (値), id (元の入力順)` を保持  
2. パーティションでカードの値 (a フィールド) を基準に比較  
3. quick\_sort で再帰的に分割・ソート  
4. ソート後、隣接する要素で同じ値かつ id が逆順をチェック  
\*/

```
#include <stdio.h>

// カード構造体
typedef struct {
    char c; // 価値: S, H, C, D
    int a; // 数字: 1-13
    int id; // 元の入力順序
} DATA;

// partition関数 (ALDS1_6_Bに基づく)
// ピボット: a[h1].a の値を基準に分割
int partition(DATA *a, int lo, int hi) {
    int i, j;
    int key;
    DATA t;

    key = a[hi].a; // ピボット値
    i = lo - 1;

    // lo から hi-1 まで走査
    for (j = lo; j < hi; j++) {
        // a[j] の値がピボット以下なら、i+1 の位置に移動
        if (a[j].a <= key) {
            i++;
            t = a[i];
            a[i] = a[j];
            a[j] = t;
        }
    }

    // ピボットを最終位置に配置
    t = a[i+1];
    a[i] = a[hi];
    a[hi] = t;

    return i; // 分割位置を返す
}

// クイックソート関数
void quick_sort(DATA *a, int lo, int hi) {
    int mi;

    if (lo < hi) {
        mi = partition(a, lo, hi);
        quick_sort(a, lo, mi - 1); // 左側を再帰的にソート
        quick_sort(a, mi + 1, hi); // 右側を再帰的にソート
    }
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

86/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

選択ソートを使い、各位置で最小値を探す  
交換時、コスト = (現在の値) + (最小値) を加算

【具体例】

位置0: [1, 5, 3, 4, 2]  
最小値は1 (既に位置0) - コスト0

位置1: [1, 5, 3, 4, 2]  
最小値は2 (位置4)  
交換: 5 + 2 = 7 - コスト += 7  
結果: [1, 2, 3, 4, 5]

位置2: [1, 2, 3, 4, 5]  
最小値は3 (既に位置2) - コスト0

位置3: [1, 2, 3, 4, 5]  
最小値は4 (既に位置3) - コスト0

位置4: [1, 2, 3, 4, 5]  
最小値は5 (既に位置4) - コスト0

合計コスト: 7 ×

【別の例】

4 3 2 1  
位置0: 最小値1 (位置3)  
交換: 4 + 1 = 5 - [1, 3, 2, 4]

位置1: 最小値2 (位置2)  
交換: 3 + 2 = 5 - [1, 2, 3, 4]

位置2: 最小値3 (位置2)  
スキップ

位置3: 最小値4 (位置3)  
スキップ

合計コスト: 5 + 5 = 10 ✓

【計算量】  
時間: O(n<sup>2</sup>) - 選択ソートの形式  
空間: O(1) - インプレース処理

【アルゴリズム】  
for i = 0 to n-1:  
 j = で最小値を探す  
 if (A[i] <= A[j]):  
 cost += A[i] + A[j]  
 swap(A[i], A[j])

```
/*
#include <stdio.h>

int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);

    int A[n];
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        scanf("%d", &A[i]);
    }
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
int main(void) {
    int N, i, f;
    scanf("%d", &N);

    for (i = 0; i < N; i++) {
        scanf("%c %d", &a[i].c, &a[i].a);
        a[i].id = i; // 元の入力順を記録
    }

    quick_sort(a, 0, N - 1);

    // 安定性判定
    // 同じ値のカードが元のid順と異なったら不安定
    f = 0;
    for (i = 1; i < N; i++) {
        // 隣接する要素で同じ値かつ元のidが逆順 → 不安定
        if (a[i-1].a == a[i].a && a[i-1].id > a[i].id) {
            f = 1;
            break;
        }
    }

    // 出力
    if (f) {
        printf("Not stable\n");
    } else {
        printf("Stable\n");
    }

    for (i = 0; i < N; i++) {
        printf("%c %d\n", a[i].c, a[i].a);
    }

    return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_6\_D.c

/\*
最小コストソートの解説

【問題の概要】  
荷物を交換するのにコストがかかる  
交換コスト = 2つの荷物の重さの合計

例: 1 5 3 4 2 を昇順にソート

■重さと値の対応  
元の位置: [1:9, 5:1, 3:2, 4:3, 2:4]  
(値:位置)

■目標位置  
1-0, 2-4, 3-2, 4-3, 5-1  
(値-目標位置)

■実験のアプローチ

85/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

})

long long cost = 0; // 総コスト

// 選択ソートで最小交換コストを計算
for (int i = 0; i < n; i++) {
 // i 以降での最小値を探す
 int minIdx = i;
 for (int j = i + 1; j < n; j++) {
 if (A[j] < A[minIdx]) {
 minIdx = j;
 }
 }
}

// 最小値が現在位置と異なったら交換
if (minIdx != i) {
 // 交換コスト = 2つの値の合計
 cost += A[i] + A[minIdx];
}

// スwap
int temp = A[i];
A[i] = A[minIdx];
A[minIdx] = temp;
}

printf("%lld\n", cost);
return 0;
}

FILE: ALDS1\_7\_A.c

/\*

樹付き木

与えられた樹付き木 \$t\$ の各節点 \$s\_i\$ について、以下の情報を出力するプログラムを作成してください。

\$t\$ の節点番号  
\$t\$ の親の節点番号  
\$t\$ の子の節点番号  
\$t\$ の節点の種類 (根、内部節点または葉)  
\$t\$ の子のリスト

ここで、与えられる木は \$t\$ 個の節点を持ち、それぞれ \$s\_0\$ から \$s\_{n-1}\$ の番号が割り当てられているものとします。

入力

入力の最初の行に、節点の個数 \$n\$ が与えられます。続く \$n\$ 行目に、各節点の情報が次の形式で1行に与えられます。

\$ids\$ \$k\$ \$s\_{-1}\$ \$s\_{-2}\$ ... \$s\_{-k}

\$ids\$ は節点の番号、\$k\$ は次数を表します。\$s\_{-1}\$ \$s\_{-2}\$ ... \$s\_{-k}\$ は 1 番目の子の節点番号、... \$s\_k\$ は \$k\$ 番目の子の節点番号を示します。

出力

次の形式で節点の情報を出してください。節点の情報はその番号が小さい順に出力してください。

node \$ids\$: parent = \$sp\$, depth = \$sd\$, type, [\$s\_{-1}\$,...,\$s\_{-k}\$]

\$sp\$ は親の番号を示します。ただし、親を持たない場合は -1 とします。\$sd\$ は節点の深さを示します。

\$types\$ は根、内部節点、葉をそれぞれあわせて root, internal node, leaf の文字列のいずれかです。ただし、根が葉や内部節点の条件に該当する場合は root とします。

87/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

88/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt  
\$c\_1\$,...,\$c\_k\$ は子のリストです。順序木とみなし入力された順に出力してください。カンマ空白区切りに注意してください。出力例にて出力形式を確認してください。

制約  
\$1 \leq n \leq 100,000\$  
節点の深さは 20 を超えない。  
任意の 2 つの節点間に必ず経路が存在する。  
入力例 1  
13  
0 3 1 4 10  
1 2 2 3  
2 0  
3 0  
4 5 6 7  
5 0  
6 0  
7 2 8 9  
8 0  
9 0  
10 2 11 12  
11 0  
12 0  
出力例 1  
node 0: parent = -1, depth = 0, root, [1, 4, 10]  
node 1: parent = 0, depth = 1, internal node, [2, 3]  
node 2: parent = 1, depth = 2, leaf, []  
node 3: parent = 1, depth = 2, leaf, []  
node 4: parent = 0, depth = 1, internal node, [5, 6, 7]  
node 5: parent = 4, depth = 2, leaf, []  
node 6: parent = 4, depth = 2, leaf, []  
node 7: parent = 4, depth = 2, internal node, [8, 9]  
node 8: parent = 7, depth = 3, leaf, []  
node 9: parent = 7, depth = 3, leaf, []  
node 10: parent = 0, depth = 1, internal node, [11, 12]  
node 11: parent = 10, depth = 2, leaf, []  
node 12: parent = 10, depth = 2, leaf, []  
入力例 2  
4  
1 3 3 2 0  
0 0  
3 0  
0 0  
出力例 2  
node 0: parent = 1, depth = 1, leaf, []  
node 1: parent = -1, depth = 0, root, [3, 2, 0]  
node 2: parent = 1, depth = 1, leaf, []  
node 3: parent = 1, depth = 1, leaf, []  
参考文献  
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.  
/\*

```
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
#define MAX_N 100000

typedef struct Node {
    int parent;
    int depth;
    int *children; // 動的配列へのポインタ
    int num_children;
} Node;
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
// メモリ解放
for (int i = 0; i < n; i++) {
    if (nodes[i].children != NULL) {
        free(nodes[i].children);
    }
}

return 0;
```

FILE: ALDS1\_7\_B.c
-----
/\*
二分木
与えられた二分木
各节点について、以下の情報を出力するプログラムを作成してください。

の節番号  
の親  
の兄弟  
の子の数  
の深さ  
の高さ  
節点の種類（根、内部節点または葉）  
ここでは、与えられた二分木は  
偏の節点を持ち、それそれ  
から  
の番号が割り当てられているものとします。

入力  
入力の最初の行に、節点の個数  
が与えられます。続く  
行毎に、各節点の情報が以下の形式で1行に与えられます。

は節点の番号。  
は左の子の番号。  
は右の子の番号を表します。子を持たない場合は  
( )は -1 で与えられます。

出力  
次の形式で節点の情報を出力してください。

```
node
: parent =
: sibling =
: depth =
: height =
,
は親の番号を表します。親を持たない場合は -1 とします。  
は左の子の番号を表します。兄弟を持たない場合は -1 とします。  
は右の子の番号を表します。
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
void setDepth(Node nodes[], int id, int depth) {
    nodes[id].depth = depth;
    for (int i = 0; i < nodes[id].num_children; i++) {
        setDepth(nodes, nodes[id].children[i], depth + 1);
    }
}

int main(){
    int n;
    scanf("%d", &n);
    Node nodes[n];
    // 配列の初期化
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        nodes[i].parent = -1;
        nodes[i].depth = 0;
        nodes[i].num_children = 0;
        nodes[i].children = NULL;
    }
    int id, k;
    for(int i = 0; i < n; i++){
        scanf("%d", &id);
        nodes[id].num_children = k;
        if (k > 0) {
            nodes[id].children = (int*)malloc(sizeof(int) * k);
        }
        for(int j = 0; j < k;j++){
            int child;
            scanf("%d", &child);
            nodes[id].children[j] = child;
            nodes[child].parent = id;
        }
    }
    // ルートノードを見つけて深さを設定
    int root = -1;
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        if (nodes[i].parent == -1) {
            root = i;
            break;
        }
    }
    setDepth(nodes, root, 0);
    for(int i = 0; i < n; i++){
        printf("%d: parent = %d, depth = %d, ", i, nodes[i].parent, nodes[i].depth);
        if(nodes[i].parent == -1)
            printf("root, ");
        else if(nodes[i].num_children == 0)
            printf("leaf, ");
        else
            printf("internal node, ");
        for(int j = 0; j < nodes[i].num_children;j++){
            if(j > 0)
                printf(", ");
            printf("%d, ", nodes[i].children[j]);
        }
        printf("\n");
    }
}
```

89/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

90/124

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
// メモリ解放
for (int i = 0; i < n; i++) {
    if (nodes[i].children != NULL) {
        free(nodes[i].children);
    }
}

return 0;
```

FILE: ALDS1\_7\_B.c
-----
/\*
二分木
与えられた二分木
各节点について、以下の情報を出力するプログラムを作成してください。

の節番号  
の親  
の兄弟  
の子の数  
の深さ  
の高さ  
節点の種類（根、内部節点または葉）  
ここでは、与えられた二分木は  
偏の節点を持ち、それそれ  
から  
の番号が割り当てられているものとします。

入力  
入力の最初の行に、節点の個数  
が与えられます。続く  
行毎に、各節点の情報が以下の形式で1行に与えられます。

は節点の番号。  
は左の子の番号。  
は右の子の番号を表します。子を持たない場合は  
( )は -1 で与えられます。

出力  
次の形式で節点の情報を出力してください。

```
node
: parent =
: sibling =
: depth =
: height =
,
は親の番号を表します。親を持たない場合は -1 とします。  
は左の子の番号を表します。兄弟を持たない場合は -1 とします。  
は右の子の番号を表します。
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
void setDepth(Node nodes[], int id, int depth) {
    if (id == -1) return;
    nodes[id].depth = depth;
    setDepth(nodes, nodes[id].left, depth + 1);
    setDepth(nodes, nodes[id].right, depth + 1);
}

int setHeight(Node nodes[], int id) {
    if (id == -1) return -1;
    int h1 = setHeight(nodes, nodes[id].left);
    int h2 = setHeight(nodes, nodes[id].right);
    int height = (h1 > h2 ? h1 : h2) + 1;
    nodes[id].height = height;
    return height;
}

int main(){
    #include <stdio.h>

    typedef struct Node {
        int parent;
        int depth;
        int height;
        int left;
        int right;
    } Node;

    void setDepth(Node nodes[], int id, int depth) {
        if (id == -1) return;
        nodes[id].depth = depth;
        setDepth(nodes, nodes[id].left, depth + 1);
        setDepth(nodes, nodes[id].right, depth + 1);
    }

    int setHeight(Node nodes[], int id) {
        if (id == -1) return -1;
        int h1 = setHeight(nodes, nodes[id].left);
        int h2 = setHeight(nodes, nodes[id].right);
        int height = (h1 > h2 ? h1 : h2) + 1;
        nodes[id].height = height;
        return height;
    }

    #include <stdio.h>
    #include <stdlib.h>
    #define MAX_N 100000

    typedef struct Node {
        int parent;
        int depth;
        int height;
        int left;
        int right;
    } Node;
```

91/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

92/124

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

int n;
scanf("%d", &n);

Node nodes[n];

// 初期化
for (int i = 0; i < n; i++) {
    nodes[i].parent = -1;
    nodes[i].depth = 0;
    nodes[i].height = 0;
    nodes[i].left = -1;
    nodes[i].right = -1;
}

// 入力読み込み
for (int i = 0; i < n; i++) {
    int id, left, right;
    scanf("%d %d %d", &id, &left, &right);
    nodes[id].left = left;
    nodes[id].right = right;
    if (left != -1) {
        nodes[left].parent = id;
    }
    if (right != -1) {
        nodes[right].parent = id;
    }
}

// ルートを見つける
int root = -1;
for (int i = 0; i < n; i++) {
    if (nodes[i].parent == -1) {
        root = i;
        break;
    }
}

// 深さと高さを計算
setDepth(nodes, root, 0);
setHeight(nodes, root);

// 出力
for (int i = 0; i < n; i++) {
    // 兄弟を見つける
    int sibling = -1;
    if (nodes[i].parent != -1) {
        int p = nodes[i].parent;
        if (nodes[p].left == i) {
            sibling = nodes[p].right;
        } else {
            sibling = nodes[p].left;
        }
    }

    // 子の数 (degree)
    int degree = 0;
    if (nodes[i].left != -1) degree++;
    if (nodes[i].right != -1) degree++;

    // タイプ
    const char *type;
    if (nodes[i].parent == -1) {

```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

type = "root";
} else if (degree == 0) {
    type = "leaf";
} else {
    type = "internal node";
}

printf("node %d parent = %d, sibling = %d, degree = %d, depth = %d, height = %d\n",
       i, nodes[i].parent, sibling, degree, nodes[i].depth, nodes[i].height, type);
}

return 0;
}

=====
FILE: ALDS1_7_C.c
/*
木の巡回
以下に示すアルゴリズムで、与えられた2分木のすべての節点を体系的に訪問するプログラムを作成してください。

根节点、左部分木、右部分木の順で節点の番号を出力する。これを木の先行巡回 (preorder tree walk) と呼びます。
左部分木、右部分木の順で節点の番号を出力する。これを木の中間巡回 (inorder tree walk) と呼びます。
左部分木、右部分木、根節点の順で節点の番号を出力する。これを木の後行巡回 (postorder tree walk) と呼びます。
与えられる2分木は、
個の節点を持ち、それれ
から
の番号が割り当てられているものとします。

入力
入力の最初の行に、節点の個数
が与えられます。続く
行目に、各節点の情報が以下の形式で1行に与えられます。
*/

節点番号の前に1つの空白文字を出力してください。

制約
入力例 1
9
0 1 4
1 2 3
2 -1 -1
3 -1
4 5 8
5 6 7
5/5

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

94/124

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

6 -1 -1
7 -1 -1
8 -1 -1
出力例 1
Preorder
1 2 3 4 5 6 7 8
Inorder
2 1 3 0 6 5 7 4 8
Postorder
2 3 1 6 7 5 8 4 0
参考文献
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.
*/
#include <stdio.h>

typedef struct Node {
    int parent;
    int depth;
    int height;
    int left;
    int right;
} Node;

void setDepth(Node nodes[], int id, int depth) {
    if (id == -1) return;
    nodes[id].depth = depth;
    setDepth(nodes, nodes[id].left, depth + 1);
    setDepth(nodes, nodes[id].right, depth + 1);
}

int setHeight(Node nodes[], int id) {
    if (id == -1) return -1;
    int h1 = setHeight(nodes, nodes[id].left);
    int h2 = setHeight(nodes, nodes[id].right);
    int height = (h1 > h2 ? h1 : h2) + 1;
    nodes[id].height = height;
    return height;
}

int preorder(Node nodes[], int id) {
    if (id == -1) return 0;
    printf("%d", id);
    preorder(nodes, nodes[id].left);
    preorder(nodes, nodes[id].right);
    return 0;
}

int inorder(Node nodes[], int id) {
    if (id == -1) return 0;
    inorder(nodes, nodes[id].left);
    printf("%d", id);
    inorder(nodes, nodes[id].right);
    return 0;
}

int postorder(Node nodes[], int id) {
    if (id == -1) return 0;
    postorder(nodes, nodes[id].left);
    postorder(nodes, nodes[id].right);
    printf("%d", id);
}

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

93/124

```
print_all.txt

2026/02/03 1:24
return 0;
}

int main(){
    int n;
    scanf("%d", &n);

    Node nodes[n];

    // 初期化
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        nodes[i].parent = -1;
        nodes[i].depth = 0;
        nodes[i].height = 0;
        nodes[i].left = -1;
        nodes[i].right = -1;
    }

    // 入力読み込み
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        int id, left, right;
        scanf("%d %d %d", &id, &left, &right);
        nodes[id].left = left;
        nodes[id].right = right;
        if (left != -1) {
            nodes[left].parent = id;
        }
        if (right != -1) {
            nodes[right].parent = id;
        }
    }

    // ルートを見つける
    int root = -1;
    for (int i = 0; i < n; i++) {
        if (nodes[i].parent == -1) {
            root = i;
            break;
        }
    }

    // 深さと高さを計算
    setDepth(nodes, root, 0);
    setHeight(nodes, root);

    // 出力
    printf("preorder\n");
    preorder(nodes, root);
    printf("\n");
    printf("inorder\n");
    inorder(nodes, root);
    printf("\n");
    printf("postorder\n");
    postorder(nodes, root);
    printf("\n");
}

/*
// 出力
for (int i = 0; i < n; i++) {
    // 只書き見つけら
    int sibling = -1;
    if (nodes[i].parent != -1) {
        if (nodes[i].parent == -1) {

```

95/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

96/124



2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

15     y->left = z // z を y の左の子にする
16     else     y->right = z // z を y の右の子にする
17
二分探索木
に対し、以下の命令を実行するプログラムを作成してください。
insert
:
にキー
を挿入する。
print: キーを木の中間順巡回(inorder tree walk)と先行順巡回(preorder tree walk)アルゴリズムで出力する。
挿入のアルゴリズムは上記隠しコードに従ってください。
```

入力  
入力の最初の行に、命令の数  
が与えられます。続く  
行目に、insert  
または print の形式で命令が1行に与えられます。

出力  
print命令ごとに、中間順巡回アルゴリズム、先行順巡回アルゴリズムによって得られるキーの順列をそれぞれ1行に出力してください。各キーの前に1つの空白を出力してください。

制約  
命令の数は  
を超えない。  
print 命令の数は  
を超えない。  
キー  
上の隠しコードのアルゴリズムに従う場合、木の高さは 100 を超えない。  
2分探索木中のキーに重複は発生しない。

入力例 1

```
8
insert 30
insert 88
insert 12
insert 1
insert 20
insert 17
insert 25
print
```

出力例 1

```
1 12 17 20 25 30 88
30 12 1 20 17 25 88
```

参考文献  
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.

\*/

```
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
#include <string.h>

typedef struct Node {
    int key;
    struct Node *parent;
    struct Node *left;
    struct Node *right;
} Node;

Node *root = NULL;
```

// 新しいノードを作成して初期化する

```
Node *create_node(int key) {
```

```
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

2026/02/03 1:24

print\_all.txt

```
if (strcmp(cmd, "insert") == 0) {
    // insert x: x を BST に挿入
    int key;
    scanf("%d", &key);
    Node *x = create_node(key);
    insert(x);
} else if (strcmp(cmd, "print") == 0) {
    // print: 中間順 - 先行順 の順に出力
    inorder(root);
    printf("\n");
    preorder(root);
    printf("\n");
}
```

```
}
```

```
return 0;
```

```
FILE: ALDS1_8_B.c
```

```
/*
二分探索木II
A: Binary Search Tree I に、find 命令を追加し、二分探索木
に対し、以下の命令を実行するプログラムを作成してください。
```

insert
:
にキー
を挿入する。
find

:  
が存在するか否かを報告する。
print: キーを木の中間順巡回(inorder tree walk)と先行順巡回(preorder tree walk)アルゴリズムで出力する。

入力  
入力の最初の行に、命令の数  
が与えられます。続く  
行目に、insert
find

または print の形式で命令が1行に与えられます。

出力  
find

命令ごとに、  
に

が含まれる場合 yes と、含まれない場合 no と1行に出力してください。

さらに print 命令ごとに、中間順巡回アルゴリズム、先行順巡回アルゴリズムによって得られるキーの順列をそれぞれ1行に出力してください。各キーの前に1つの空白を出力してください。

制約  
命令の数は  
を超えない。  
print 命令の数は  
を超えない。  
キー

上の隠しコードのアルゴリズムに従う場合、木の高さは  
を超えない。  
2分探索木中のキーに重複は発生しない。

入力例 1

```
10
insert 30
insert 88
insert 12
insert 1
insert 20
find 12
insert 17
insert 25
find 16
print
```

出力例 1

```
yes
no
1 12 17 20 25 30 88
30 12 1 20 17 25 88
```

参考文献  
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.

\*/

```
localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/
```

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

Node *node = (Node *)malloc(sizeof(Node));
if (node == NULL) {
    exit(1);
}
node->key = key;
node->parent = NULL;
node->left = NULL;
node->right = NULL;
return node;
}

// 隠しコード - KMP_insert に従って BST に挿入する
void insert_node(Node **z) {
    Node *y = NULL;
    Node **x = root;

    //挿入位置を探索
    while (*x != NULL) {
        y = *x;
        if (z->key < x->key) {
            x = x->left;
        } else {
            x = x->right;
        }
    }

    // 継承設定し、親の左/右にぶら下げる
    z->parent = y;
    if (y == NULL) {
        root = z;
    } else if (z->key < y->key) {
        y->left = z;
    } else {
        y->right = z;
    }
}

// 中間順巡回 (昇順に出力される)
void inorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    inorder(u->left);
    printf("%d ", u->key);
    inorder(u->right);
}

// 先行順巡回 (根-左-右)
void preorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    printf("%d ", u->key);
    preorder(u->left);
    preorder(u->right);
}

int main(void) {
    int m;
    if (scanf("%d", &m) != 1) {
        return 0;
    }

    for (int i = 0; i < m; i++) {
        char cmd[10];
        scanf("%s", cmd);
        if (strcmp(cmd, "insert") == 0) {
            insert(create_node(key));
        } else if (strcmp(cmd, "print") == 0) {
            inorder(root);
            printf("\n");
            preorder(root);
            printf("\n");
        }
    }
}
```

101/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
print_all.txt

Node *node = (Node *)malloc(sizeof(Node));
if (node == NULL) {
    exit(1);
}
node->key = key;
node->parent = NULL;
node->left = NULL;
node->right = NULL;
return node;
}

// 隠しコード - KMP_insert に従って BST に挿入する
void insert_node(Node **z) {
    Node *y = NULL;
    Node **x = root;

    //挿入位置を探索
    while (*x != NULL) {
        y = *x;
        if (z->key < x->key) {
            x = x->left;
        } else {
            x = x->right;
        }
    }

    // 継承設定し、親の左/右にぶら下げる
    z->parent = y;
    if (y == NULL) {
        root = z;
    } else if (z->key < y->key) {
        y->left = z;
    } else {
        y->right = z;
    }
}

// 中間順巡回 (昇順に出力される)
void inorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    inorder(u->left);
    printf("%d ", u->key);
    inorder(u->right);
}

// 先行順巡回 (根-左-右)
void preorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    printf("%d ", u->key);
    preorder(u->left);
    preorder(u->right);
}

int main(void) {
    int m;
    if (scanf("%d", &m) != 1) {
        return 0;
    }

    for (int i = 0; i < m; i++) {
        char cmd[10];
        scanf("%s", cmd);
        if (strcmp(cmd, "insert") == 0) {
            insert(create_node(key));
        } else if (strcmp(cmd, "print") == 0) {
            inorder(root);
            printf("\n");
            preorder(root);
            printf("\n");
        }
    }
}
```

102/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

100

2026/02/03 1:24

```

root = z;
} else if (z->key < y->key) {
    y->left = z;
} else {
    y->right = z;
}

Node *find_node(int key) {
    Node **x = root;

    while (*x != NULL && key != x->key) {
        if (key < x->key) {
            x = x->left;
        } else {
            x = x->right;
        }
    }

    return *x;
}

void inorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    inorder(u->left);
    printf("%d", u->key);
    inorder(u->right);
}

void preorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    printf("%d", u->key);
    preorder(u->left);
    preorder(u->right);
}

int main(void) {
    int m;
    if (scanf("%d", &m) != 1) {
        return 0;
    }

    for (int i = 0; i < m; i++) {
        char cmd[10];
        scanf("%s", cmd);

        if (strcmp(cmd, "insert") == 0) {
            int key;
            scanf("%d", &key);
            Node *x = create_node(key);
            insert_node(x);
        } else if (strcmp(cmd, "find") == 0) {
            int key;
            scanf("%d", &key);
            Node *result = find_node(key);
            if (result != NULL) {
                printf("yes\n");
            } else {
                printf("no\n");
            }
        } else if (strcmp(cmd, "print") == 0) {
            inorder(root);
        }
    }
}

```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

print\_all.txt

```

出力
find
命令ごとに、
に
が含まれる場合 yes と、含まれない場合 no と1行に出力してください。

```

さらに print 命令ごとに、中間順巡回アルゴリズム、先行順巡回アルゴリズムによって得られるキーの順列をそれぞれ1行に出力してください。各キーの前に1つの空白を出力してください。

制約  
 命令の数は  
 を超えない。  
 print命令の数は  
 を超えない。  
 キー

上記の既定コードのアルゴリズムに従う場合、木の高さは  
 を超えない。  
 二分探索木中のキーに重複は発生しない。

入力例 1  
 18  
 insert 8  
 insert 2  
 insert 3  
 insert 7  
 insert 22  
 insert 1  
 find 1  
 find 2  
 find 3  
 find 4  
 find 5  
 find 6  
 find 7  
 find 8  
 print  
 delete 3  
 delete 7  
 print  
 出力例 1  
 yes  
 yes  
 yes  
 no  
 no  
 no  
 no  
 yes  
 yes  
 1 2 3 7 8 22  
 8 1 3 7 22  
 1 2 8 22  
 8 2 1 22  
参考文献  
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.  
\*/

```

#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
#include <string.h>

typedef struct Node {
    int key;
    struct Node *parent;
    struct Node *left;
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```

printf("\n");
preorder(root);
printf("\n");
}

return 0;
}

FILE: ALDS1_8_C.c
-----
/*
2分探索木III
B: Binary Search Tree II に、delete 命令を追加し、二分探索木
に対し、以下の命令を実行するプログラムを作成してください。

insert
:
にキー
を挿入する。
find
:
にキー
が存在するか否かを報告する。
delete
:
キー
を挙げた節点を削除する。
print: キーを木の中間順巡回(inorder tree walk)と先行順巡回(preorder tree walk)アルゴリズムで出力する。
二分探索木
からも入られたキー
を持つ節点
を削除する delete k は以下の3つの場合を検討したアルゴリズムに従い、二分探索木条件を保つつね子のリンク（ポインタ）を更新します：

が子を持たない場合、
の親
の子（つまり
）を削除する。
がちょうど2つの子を持つ場合、
の親の子
の子に変更、
の子の親を
の親に変更し、
を木から削除する。
が子を2つ持つ場合、
の親の子
のキーを
のキーへコピーし、
を削除する。
の削除で 1. または 2. を適用する。ここで、
の次節点とは、中間順巡回で
の次の得られる節点である。
入力
入力の最初の行に、命令の数
が与られます。続く
行目に、insert
find
delete
または print の形式で命令が1行に与えられます。

```

105/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

print\_all.txt

```

2026/02/03 1:24
struct Node *right;
} Node;
Node *root = NULL;

Node *create_node(int key) {
    Node *node = (Node *)malloc(sizeof(Node));
    if (node == NULL) {
        exit(1);
    }
    node->key = key;
    node->parent = NULL;
    node->left = NULL;
    node->right = NULL;
    return node;
}

void insert_node(Node *x) {
    Node *y = NULL;
    Node *x = root;

    while (x != NULL) {
        y = x;
        if (x->key < x->key) {
            x = x->left;
        } else {
            x = x->right;
        }
    }

    z->parent = y;
    if (y == NULL) {
        root = z;
    } else if (z->key < y->key) {
        y->left = z;
    } else {
        y->right = z;
    }
}

Node *find_node(int key) {
    Node *x = root;
    while (x != NULL && key != x->key) {
        if (key < x->key) {
            x = x->left;
        } else {
            x = x->right;
        }
    }
    return x;
}

Node *find_minimum(Node **x) {
    while (*x->left != NULL) {
        *x = *x->left;
    }
    return *x;
}

Node *find_successor(Node **x) {
    if (*x->right != NULL) {
        return find_minimum(*x->right);
    }
}

```

107/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

106/124



2026/02/03 1:24

```
insert 6 90
print
find 21
find 22
delete 35
delete 99
print
输出例 1
1 3 6 7 14 21 35 42 80 86
35 6 3 1 14 7 21 80 42 86
yes
no
1 3 6 7 14 21 42 80 86
6 3 1 80 14 7 21 42 86
参考文献
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.
Randomized Search Trees, R. Seidel, C.R. Aragon.
```

```
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
#include <string.h>
```

```
typedef struct Node {
    int key;
    int priority;
    struct Node *left;
    struct Node *right;
} Node;
```

Node \*root = NULL;

```
Node *create_node(int key, int priority) {
    Node *node = (Node *)malloc(sizeof(Node));
    if (node == NULL) {
        exit(1);
    }
}
```

```
node->key = key;
node->priority = priority;
node->left = NULL;
node->right = NULL;
return node;
}
```

```
Node *rotate_right(Node *t) {
    Node *s = t->left;
    t->left = s->right;
    s->right = t;
    return s;
}
```

```
Node *rotate_left(Node *t) {
    Node *s = t->right;
    t->right = s->left;
    s->left = t;
    return s;
}

Node *insert(Node *t, int key, int priority) {
    if (t == NULL) {
        return create_node(key, priority);
    }
}
```

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

```
if (key == t->key) {
    return t;
}

if (key < t->key) {
    t->left = insert(t->left, key, priority);
    if (t->priority < t->left->priority) {
        t = rotate_right(t);
    }
} else {
    t->right = insert(t->right, key, priority);
    if (t->priority < t->right->priority) {
        t = rotate_left(t);
    }
}
return t;
}

Node *find_node(Node *t, int key) {
    if (t == NULL) return NULL;
    if (key == t->key) return t;
    if (key < t->key) {
        return find_node(t->left, key);
    } else {
        return find_node(t->right, key);
    }
}

Node *delete_target(Node *t, int key);
Node *search_and_delete(Node *t, int key) {
    if (t == NULL) {
        return NULL;
    }
    if (key < t->key) {
        t->left = search_and_delete(t->left, key);
    } else if (key > t->key) {
        t->right = search_and_delete(t->right, key);
    } else {
        return delete_target(t, key);
    }
    return t;
}

Node *delete_target(Node *t, int key) {
    if (t->left == NULL && t->right == NULL) {
        free(t);
        return NULL;
    }
    else if (t->left == NULL) {
        t = rotate_left(t);
    } else if (t->right == NULL) {
        t = rotate_right(t);
    } else {
        if (t->left->priority > t->right->priority) {
            t = rotate_right(t);
        } else {
            t = rotate_left(t);
        }
    }
    return search_and_delete(t, key);
}
```

113/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

114/124

2026/02/03 1:24

```
void inorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    inorder(u->left);
    printf("%d", u->key);
    inorder(u->right);
}

void preorder(Node *u) {
    if (u == NULL) return;
    printf("%d", u->key);
    preorder(u->left);
    preorder(u->right);
}
```

```
int main(void) {
    int m;
    if (scanf("%d", &m) != 1) {
        return 0;
    }

    for (int i = 0; i < m; i++) {
        char cmd[10];
        scanf("%s", cmd);

        if (strcmp(cmd, "insert") == 0) {
            int key, priority;
            scanf("%d %d", &key, &priority);
            root = insert(root, key, priority);
        } else if (strcmp(cmd, "find") == 0) {
            int key;
            scanf("%d", &key);
            Node *result = find_node(root, key);
            if (result != NULL) {
                printf("yes\n");
            } else {
                printf("no\n");
            }
        } else if (strcmp(cmd, "delete") == 0) {
            int key;
            scanf("%d", &key);
            root = search_and_delete(root, key);
        } else if (strcmp(cmd, "print") == 0) {
            inorder(root);
            printf("\n");
            preorder(root);
            printf("\n");
        }
    }
    return 0;
}
```

```
FILE: ALDS1_9_A.c
-----
/*
完全二分木
すべての葉が同じ深さを持ち、すべての内部節点の次数が 2 であるような二分木を完全二分木と呼びます。また、二分木の最下位レベル以外のすべてのレベルは完全に埋まっており、最下位レベルは最後の節点まで左から順に埋まっているような木も（および
```

二分ヒープは、次の図のように、木の各節点に割り当てられたキーが1つの配列の各要素に対応した完全二分木で表されたデータ構造です。

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

2026/02/03 1:24

二分ヒープを表示配列を  
二分ヒープのサイズ（要素数）を  
とすれば、  
二分ヒープの要素が格納されます。木の根の添え字は  
であり、木の各節点の添え字  
が与えられたとき、その親  
・左の子  
・右の子  
はそれがそれ  
  
簡単に算出することができます。  
完全二分木で表された二分ヒープを読み込み、以下の形式で二分ヒープの各節点の情報を作成してください。  
node  
: key =  
, parent key =  
, left key =  
, right key =  
,  
  
ここで、  
は節点の番号（インデックス）、  
は節点の値、  
は親の値、  
は左の子の値、  
は右の子の値を表示します。これらの情報をこの順番で出力してください。ただし、該当する節点が存在しない場合は、出力を行わないものとします。  
入力  
入力の最初の行に、二分ヒープのサイズ  
が与えられます。続いて、ヒープの節点の値（キー）を表す  
個の整数がそれらの節点の番号順に空白区切りで与えられます。  
出力  
上記形式で二分ヒープの節点の情報をインデックスが 1 から  
に向かって出力してください。各行の最後が空白区切りで与えられます。  
制约  
節点のキー  
入力例 1  
5  
7 8 1 2 3  
出力例 1  
node 1: key = 7, left key = 8, right key = 1,  
node 2: key = 8, parent key = 7, left key = 2, right key = 3,  
node 3: key = 1, parent key = 7,  
node 4: key = 2, parent key = 8,  
node 5: key = 3, parent key = 8,

参考文献  
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.

\*/

#include &lt;stdio.h&gt;

int H[250000];

int H\_size;

int parent(int i) {

115/124

localhost:64406/31b3d4d9-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

116/124

```
2026/02/03 1:24 print_all.txt
return i / 2;
}

int left(int i) {
    return 2 * i;
}

int right(int i) {
    return 2 * i + 1;
}

int main(void) {
    scanf("%d", &H_size);
    for (int i = 1; i <= H_size; i++) {
        scanf("%d", &H[i]);
    }

    for (int i = 1; i <= H_size; i++) {
        printf("node %d: key = %d, ", i, H[i]);
        if (parent(i) >= 1) {
            printf("parent key = %d, ", H[parent(i)]);
        }
        if (left(i) <= H_size) {
            printf("left key = %d, ", H[left(i)]);
        }
        if (right(i) <= H_size) {
            printf("right key = %d, ", H[right(i)]);
        }
    }
    printf("\n");
}
return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_9\_B.c

```
/*
最大ヒープ

「節点のキーその他の値のキー以下である」という max-ヒープ条件を満たすヒープを、max-ヒープと呼びます。max-ヒープでは、最大の要素が根に格納され、ある節点を根とする部分木の節点のキーは、その部分木の根のキー以下となります。親子関係のみに大切
```

例えば、下図はmax-ヒープの例です。

与えられた配列から以下の疑似コードに従ってmax-ヒープを構築するプログラムを作成してください。

```
/*
節点
根とする部分木が max-ヒープになろう
の値を max-ヒープの葉に向かって下階させます。ここで
をヒープサイズします。
1 maxHeapify(A, i)
2   l = left(i)
3   r = right(i)
4   // 左の子、自分、右の子で値が最大のノードを選ぶ

```

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

```
2026/02/03 1:24 print_all.txt
if (r <= H_size && A[r] > A[largest]) {
    largest = r;
}

if (largest != i) {
    int temp = A[i];
    A[i] = A[largest];
    A[largest] = temp;
    maxHeapify(A, largest);
}
```

```
void buildMaxHeap(A[]) {
    for (int i = H_size / 2; i >= 1; i--) {
        maxHeapify(A, i);
    }
}
```

```
int main(void) {
    scanf("%d", &H_size);
    for (int i = 1; i <= H_size; i++) {
        scanf("%d", &H[i]);
    }
    buildMaxHeap(H);
    for (int i = 1; i <= H_size; i++) {
        printf("%d", H[i]);
    }
    printf("\n");
}
return 0;
}
```

FILE: ALDS1\_9\_C.c

```
/*
優先度付きキュー

優先度付きキュー（priority queue）は各要素がキーを持つデータの集合
を保持するデータ構造で、主に次の操作を行います：
```

```
: 集合
に要素
を挿入する
最大のキーを持つ
の要素を
から削除してその値を返す
優先度付きキュー
に対して
を行なうプログラムを作成してください。ここでは、キューの要素を整数とし、それ自身をキーとみなします。
```

```
出入
優先度付きキュー
への複数の命令が与えられます。各命令は、insert
、extractまたはpushの形で命令が1行で与えられます。ここで
は挿入する要素数を表します。
```

end命令が入力の終わりを示します。

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

```
2026/02/03 1:24 print_all.txt
if (l <= H_size && A[l] > A[i]) {
    largest = l;
} else {
    largest = i;
}
if (r <= H_size && A[r] > A[largest]) {
    largest = r;
}
if (largest != i) // i の子の方が値が大きい場合
    swap(A[i], A[largest]); // 交換
maxHeapify(A, largest); // 再帰的に呼び出し
次の buildMaxHeap(A) はボトムアップに maxHeapify を適用することで配列
を max-ヒープに変換します。
```

```
1 buildMaxHeap(A)
2   for i = H/2 downto 1
3     maxHeapify(A, i)
输入
入力の最初の行に、ヒープのサイズ
が与えられます。続いて、ヒープの節点の値を表す
個の整数が節点の番号が 1 から
に向かって順番に空白区切りで与えられます。
出力
max-ヒープの節点の値を節点の番号が 1 から
に向かって順番に1行に出力してください。各値の直前に1つの空白文字を出力してください。
制約
節点の値
入力例 1
10
4 3 2 16 9 10 14 8 7
出力例 1
16 14 10 8 7 9 3 2 4 1
参考文献
Introduction to Algorithms, Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest, and Clifford Stein. The MIT Press.
```

\*/

#include <stdio.h>

int H[500000];

int H\_size;

```
int left(int i) {
    return 2 * i;
}

int right(int i) {
    return 2 * i + 1;
}
```

```
void maxHeapify(int A[], int i) {
    int l = left(i);
    int r = right(i);
    int largest;

    if (l <= H_size && A[l] > A[i]) {
        largest = l;
    } else {
        largest = i;
    }
}
```

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

117/124

2026/02/03 1:24 print\_all.txt

```
输出
extract命令ごとに、優先度付きキュー
から取り出される値を1行に出力してください。
```

```
制約
命令の数は
を超えない。
k
输入例 1
insert 8
insert 2
extract
insert 10
extract
insert 11
extract
extract
end
出力例 1
8
10
11
2
2

```

\*/

#include <stdio.h>

#include <string.h>

int H[2800000];

int H\_size = 0;

```
int parent(int i) {
    return i / 2;
}
```

```
int left(int i) {
    return 2 * i;
}
```

```
int right(int i) {
    return 2 * i + 1;
}
```

```
void maxHeapify(int i) {
    int l = left(i);
    int r = right(i);
    int largest;

    if (l <= H_size && H[l] > H[i]) {
        largest = l;
    } else {
        largest = i;
    }
}
```

if (r <= H\_size && H[r] > H[largest]) {

largest = r;
}

if (largest != i) {

int temp = H[i];

H[i] = H[largest];

H[largest] = temp;

}

localhost:64406/31b3d469-751f-4141-9122-495ac7ad1459/

119/124

118/124

```
(最悪) 計算量 22 while heapSize > 1
(平均) 安定性 23 swap(A[1], A[heapSize])
```

```
2026/02/03 1:24
print_all.txt
24     heapSize--;
25     maxHeapify(A, 1)
一方、ヒープソートでは、隣れた要素が頻繁にスワップされ、連続でない要素へのランダムアクセスが多く発生してしまいます。
要素の数列
が与えられます。最大ヒープを満たし、ヒープソートを行ったときに疑似コード25行目のmaxHeapifyにおけるスワップ回数の総数が最大となるよう
の配列を1つ作成してください。
入力
1行目に、数列の真さを表す整数
が与えられます。2行目に、
個の整数が空白区切りで与えられます。
出力
条件を満たす数列を 1 行に出力してください。数列の連続する要素は1つの空白で区切って出力してください。
この問題では、1 つの入力に対して複数の解答があります。条件を満たす出力は全て正解となります。
制約
の要素
の要素は全て異なる
入出力例
入力例1
8
1 2 3 5 9 12 15 23
出力例1
23 9 15 2 5 3 12 1
/*
#include <stdio.h>

int A[500000];
int N;

int left(int i) {
    return 2 * i;
}

int right(int i) {
    return 2 * i + 1;
}

void maxHeapify(int A[], int i, int heapSize) {
    int l = left(i);
    int r = right(i);
    int largest;

    if (l <= heapSize && A[l] > A[i]) {
        largest = l;
    } else {
        largest = i;
    }

    if (r <= heapSize && A[r] > A[largest]) {
        largest = r;
    }

    if (largest != i) {
        int temp = A[i];
        A[i] = A[largest];
        A[largest] = temp;
        maxHeapify(A, largest, heapSize);
    }
}
```

```

2026/02/03 1:24
    maxHeapify(A, largest, heapSize);
}

void buildMaxHeap(int A[], int n) {
    for (int i = n / 2; i >= 1; i--) {
        maxHeapify(A, i, n);
    }
}

void heapSort(int A[], int n) {
    buildMaxHeap(A, n);
    int heapSize = n;
    while (heapSize > 1) {
        int temp = A[1];
        A[1] = A[heapSize];
        A[heapSize] = temp;
        heapSize--;
        maxHeapify(A, 1, heapSize);
    }
}

int main(void) {
    scanf("%d", &N);

    for (int i = 1; i <= N; i++) {
        scanf("%d", &A[i]);
    }

    for (int i = 1; i <= N; i++) {
        for (int j = i + 1; j <= N; j++) {
            if (A[i] < A[j]) {
                int temp = A[i];
                A[i] = A[j];
                A[j] = temp;
            }
        }
    }
}

buildMaxHeap(A, N);

for (int i = 1; i <= N; i++) {
    if (i > 1) printf(" ");
    printf("%d", A[i]);
}
printf("\n");
}

return 0;
}

```

FILE: B2.c

```
A[i] = A[largest];
A[largest] = temp;
```